

長 薬 同 窓 会 報

Alumni Association

School of Pharmaceutical Sciences

Nagasaki University

第 61 号 (2021年)

目 次

同窓会長挨拶……………山口 正広（昭56）……………	1
薬学部長挨拶……………西田 孝洋……………	2
下村脩博士胸像除幕式の開催報告……………	3
令和3年度長薬同窓会定期総会（書面開催）……………	4
令和4年度長薬同窓会定期総会のご案内……………	4
支部だより……………	5
関東支部，近畿支部，福岡支部浦陵会，大分支部，宮崎支部日向浦陵会 佐賀支部若楠会，長崎県北支部，長崎支部ぐびろ会	
クラス会および近況だより……………	11
西脇金一郎（昭33），池田修一（昭37），木原隆英（院昭43），上ノ段茂（昭50），重松敏彦（昭55） 都知木睦（昭56），坂本 純（院昭60），塩田英雄（昭60），山口綾子（昭60），小川昂輝（平27） 林田颯志（平28），橋口啓吾（令3修1），中村大海，森 洸太（学1），泉 龍昇（学3） 小嶺敬太（平24），岸川直哉（平10），山口正広（昭56）	
研究室だより……………	25
細胞制御学，創薬薬理学，薬化学，薬品製造化学，医薬品合成化学，ゲノム創薬学，天然物化学 機能性分子化学，衛生化学，薬品分析化学，薬物治療学，医薬品情報学，薬剤学，実践薬学 薬用植物学，臨床研究薬学，治療薬剤学，薬品構造解析学	
庶務報告……………	45
物故者氏名……………	45
会則の変更……………	46
寄附のご案内……………	47
学内記事……………	49
長薬同窓会役員名簿……………	50
長薬同窓会支部一覧……………	51
会計報告（令和2年度決算，監査報告，令和3年度予算）……………	52
事務局からのお願い	
編集後記	



ご 挨拶

会 長 山 口 正 広 (昭56)

長薬同窓会報第61号の発行にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

会員の皆様には日頃から同窓会活動にご理解とご協力をいただき心から感謝申し上げます。また、同窓会報の発行にあたり、投稿いただきました会員の皆様並びに編集作業に携わっていただいた本部役員の皆様には、お忙しい中ご対応いただき誠にありがとうございます。

令和3年度は昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症が周期的に拡大し、東京等に発令された緊急事態宣言等が全面的に解除された9月末頃まで、全国的に厳しい感染防止対策が求められました。

長薬同窓会におきましても、WITHコロナを念頭において事業執行に取り組まざるを得ず、例年ですと対面で開催している理事会や定期総会につきましては残念ながら昨年度と同様に書面による開催となり、会員皆様とお会いすることができませんでした。また、「グピロが丘下の薬専防空壕跡地の慰霊碑周辺の清掃活動」については、昨年度に引き続き参加者を絞り込み、本部役員を中心に実施いたしました。そして、8月9日の長崎大学(医学部)主催による原爆犠牲者慰霊祭への参列や平成26年(2014年)から行っています新入生への白衣贈呈式などの事業につきましても、規模縮小するなど感染防止対策を図りながら取り組んでいるところです。

そのような中、10月に入り感染拡大も一定の落ち着きが見られたことから、延期されていまして下村脩博士胸像の除幕式が、10月21日(木)13時30分から薬学部玄関ロビーにおいて開催されました。感染対策についてはなお慎重な対応が必要との判断から、密を避けた少人数による除幕セレモニーとなりました。除幕式の様子については、同窓会のホームページに掲載していますのでご覧ください。除幕式では下村脩博士の奥様であり本会会員でもある下村明美様(昭34)から頂戴したお手紙の紹介もあり、胸像設置への思いも綴られていました。

以上が今年度途中までの事業報告となりますが、この他に二点ほど同窓会の動きについて報告させていただきます。

一点目は、分析窮理所(1865年に小島養生所・医

学所の隣接地に開設された理化学校)が長崎大学薬学部の源流と言われていることを後世に残すため、小島養生所の関連遺跡として長崎市立仁田佐古小学校敷地内に長崎市が復元・整備しました分析窮理所遺構の整備区域内に記念碑(写真参照)を建立し、また、説明板にもその旨を記載いただきました。是非見学に行ってみてください。

二点目は、昭和11年卒業の故遠藤武男先生(薬専13回)から平成9年(1997年)に同窓会へ頂戴した寄附金の新たな活用方策の検討を本部役員で行っていることです。同寄附金については、当時の市川同窓会長を中心に役員の方々と活用方策の検討が行われ、一部が名簿管理システムの整備に、残りは厚生省(現・厚生労働省)委託事業の薬剤師実務研修制度に採択された長薬同窓生に奨学金を貸与する「遠藤武男奨学金制度」の原資として活用されました(このことは同窓会報第37号(1997年)の会長挨拶に記載)。その後、本研修制度も終了し、貸与した奨学金も全額返還いただいているところであり、同寄附金の新たな活用方策の検討が課題となっています。なるべく早く新たな活用方策を決定し実行に移せるよう努めてまいります。

新型コロナウイルス感染症については、今冬にも第6波の感染再拡大が起きるのではないかと専門家などから指摘がなされています。会員の皆様におかれましては、健康には十分に留意され健やかに過ごされることを祈っております。また、一日も早く同感染症が終息し、定期総会や支部総会などが対面で開催できることを願っています。





長薬同窓会の皆様へ

長崎大学薬学部長 西田 孝洋

長薬同窓会の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。常日頃より長崎大学薬学部の教育研究に格別のご支援とご高配を賜り誠にありがとうございます。この度、4月より尾野村先生の後任として薬学部長を拝命した薬剤学研究室の西田でございます。私は、平成3（1991）年4月に長崎大学薬学部に助手として着任し、以来長薬同窓会の皆様に御世話になっております。本年は永年勤続30年表彰を迎え、気持ちを新たに、長崎大学薬学部の発展に努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて令和3年には、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、コロナ禍で無観客ではありましたが、大きな感動を呼びました。長崎大学薬学部にとってもメモリアルな一年となりました。長崎大学薬学部の源流とされている分析窮理所（1865年設立）の遺構の一部を長崎市立仁田佐古小学校敷地に移設復元する工事が完了し、見学が可能になりました。1年次生の初年次セミナーでは、長崎大学薬学部の歴史教育の一環として、フィールドワークに遺構見学などを取り入れています。一方、令和2年3月に予定していた下村脩博士の胸像除幕式は、新型コロナウイルス感染症蔓延のため延期となっておりましたが、感染状況が落ち着いたことから、胸像の除幕式のみを10月21日に執り行いました。皆様も、近くにお越しの折には下村脩名誉博士顕彰記念館と共に見学していただければ幸いです。

昨年度から、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、オンライン講義が中心となっておりますが、感染予防対策を十分取った上で対面講義をかなり取り入れております。薬学部講義室のオンライン化対応の整備が進み、対面講義をしながらオンラインでも受講できるハイフレックス方式

が円滑に実施出来るようになりました。今後は、対面とオンラインの特長を活かした講義が実践され、学習効果がより一層高まることを期待しています。

ここで、この場をお借りして、人事異動の近況、国家試験の合格状況や就職状況について報告させていただきます。6月に衛生化学研究室の淵上 剛志 准教授が金沢大学に異動されました。1月には細胞制御学研究室の助教に竹生田 淳 先生、4月には機能性分子化学研究室のプロジェクト助教に三瓶 悠 先生、7月には創薬薬理学研究室のプロジェクト助教に岡元 拓海 先生が採用されました。また9月には、薬物治療学研究室の准教授として、平山 達朗 先生が長崎大学病院より着任されました。

続きまして、第106回の国家試験では、新卒者34名が受験し30名が合格し、合格率は88%でした。高い合格率を維持するため、今後もきめ細かな指導を行っていきます。

就職・進学状況については、薬学科の卒業生35名のうち、病院12名・調剤薬局15名、3名が公務員、1名が製薬関連企業に就職し、また1名が大学院に進学しました。一方、薬科学科では卒業生40名中、本学大学院博士前期課程進学が33名、他大学院進学が2名、公務員が1名、就職が4名となっております。博士前期課程修了者26名の進路は、博士後期課程進学者が9名、製薬企業10名、化学等の製造業5名となっております。今後も学生の希望に沿った進路実現に向けて、サポートを一層充実させていきますので、同窓会の皆様には引き続きご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、長薬同窓会の今後益々のご発展と会員の皆様のご健勝を祈念いたします。今後の新型コロナウイルス感染状況は予測できませんが、その内に皆様と顔を合わせることが出来ることを切に望んでおります。

下村脩博士胸像除幕式の開催報告

新型コロナウイルス感染拡大も一定の落ち着きが見られ、東京等に発令された緊急事態宣言等も9月30日をもって解除されたことから、延期されていました下村脩博士胸像の除幕式を10月21日（木）13時30分より薬学部玄関ロビーにおいて開催いたしました。

除幕式には河野茂学長、中島憲一郎名誉教授に御臨席を賜り、薬学部からは黒田直敬教授、尾野村治教授、西田孝洋薬学部長にご列席いただきました。

同窓会といたしましては、多くの会員の皆様にご出席いただき、下村脩博士胸像の除幕式等を盛大に催したいところでしたが、コロナ禍での開

催であったため事情を考慮し、山口正広同窓会長、山中國暉事業後援会会長のほか、学内所属の本部役員のみのお出席とさせていただきました。

除幕式では河野学長のご挨拶の後、山中事業後援会会長から胸像作製に至った経緯をご説明いただきました。その後、下村先生の奥様よりいただいたお手紙の紹介が行われ、下村先生の研究生活の中でも長崎大学時代が人生で一番大切な時を過ごした場所であったことが綴られていました。

除幕式の様子については、薬学部や長薬同窓会のホームページにも掲載してありますので、ご覧ください。



河野学長のご挨拶

山中事業後援会会長のご挨拶



令和3年度長薬同窓会定期総会 (書面開催)

今年度の定期総会につきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から昨年度に引き続き書面開催とさせていただきます。令和3年6月21日を締切として書面議決の返信ハガキをご提出いただきました。誠にありがとうございました。

結果につきまして下記のとおりです。

記

◎令和3年度 長薬同窓会定期総会書面開催結果

議案

第1号議案	令和2年度事業報告の件	賛成617, 反対 1
第2号議案	令和2年度決算報告・監査報告の件	賛成618, 反対 0
第3号議案	令和2年度庶務報告の件	賛成618, 反対 0
第4号議案	長薬同窓会役員の変更の件	賛成618, 反対 0
第5号議案	長薬同窓会会則改正の件	賛成618, 反対 0
第6号議案	令和3年度事業計画案の件	賛成618, 反対 0
第7号議案	令和3年度予算案の件	賛成618, 反対 0
第8号議案	次年度定期総会の開催場所の件	賛成618, 反対 0

結果

すべての議案について、過半数の賛成をもって可決・承認されました。

令和4年度長薬同窓会定期総会のご案内

日時 2022年6月18日(土) 17時～ 総会, 懇親会(予定)

場所 ホテルニュー長崎(JR長崎駅徒歩約5分)

〒850-0057 長崎市大黒町14-5 TEL 095-826-8000

※新型コロナウイルス感染拡大により開催中止となる場合があります。

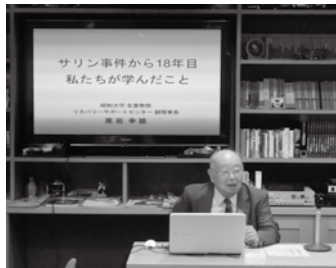
5月頃お送りする定期総会案内でご確認ください。

支部だより

●● 関東支部 ●●

支部長 原 正朝 (昭60)

今年も残念ながら、関東支部の活動は、幹事会、総会とも新型コロナウイルスの感染拡大防止のため行うことができませんでした。そのような中、平成9年から平成14年まで関東支部長を務められた、黒岩幸雄先生(昭30)の訃報が届きました。黒岩先生は毎年関東支部総会には欠かさず出席されました。気さくなお人柄で、黒岩先生がいらっしゃるだけで場が明るくなるかけがえない先輩でした。心よりお悔やみを申し上げますとともに、ご冥福をお祈りいたします。



さて、今年も私の近況報告をいたしますと、6月に青森県弘前市の株式会社みんゆう薬品から、愛知県名古屋市市の株式会社中日エムエスの代表取締役役に就任し、自宅のある川崎市を飛び越して、名古屋で単身赴任を続けています。弘前で2回目の春を迎え、昨春はコロナで弘前城の桜祭りも完全中止でしたが、今年は感染対策を行ったうえで弘前城公園も開放され、すばらしい桜を見るこ

とことができました。ゴールデンウィークには、下北半島を一周し春の大自然と温泉を堪能してきました。青森県の温泉は源泉総数1,075、全国6位の国内有数の温泉県です。2年間という短い間でしたが、酸ヶ湯温泉、不老不死温泉、下風呂温泉、浅虫温泉、薬研温泉、百沢温泉、その他いろいろな温泉に行きました。入浴料も数百円とお手頃です。春夏秋冬がはっきりとしている雪国での生活は貴重な経験となりました。中日エムエスは名古屋市市中区の新栄に中日調剤薬局本店があり、名古屋テレビ塔を見ながら通勤しています。名古屋では、にわか中日ドラゴンズファンとなって、バンテリンドーム名古屋へも行ってみようと思っています。今シーズンは入場者数に制限があり観戦が難しかったのですが、来シーズンはコロナも終息して今年のような制限なしで野球観戦ができるようになって欲しいものです。関東支部の活動も来年には復活できることを期待しています。



●● 近畿支部 ●●

～近畿支部の一会員からの便り～

幹事長 伊藤 潔 (昭59)

2019年の10月に大阪で同窓会総会を開催したことも懐かしい「おもいで」になってしまいました。支部だよりの原稿の依頼がありましたが、その後の支部としての活動は、2020年度はほとんど、2021年度に至っては何もしていません。「他の支部はどうしているのだろうか?」。ふと頭に浮かびましたが、「今更どうしようもあるまい」と気にしないこととします。コロナ禍の中、何もできませんでしたが、末澤支部長をはじめとする幹事数名は関西の生活を送っています。苦し紛れに考えたのは、「個人的な出来事で行ってみよう」です。外出自粛で行動範囲は限られましたが、それなりにいろいろな新しいことに

手を出した自分を感じていました。そこに、幹事の賛同、反論を加え、一部を深掘りすれば、少しは気の利いた読み物となり、少なくとも一部の同窓生には読んでもらえるのではという妄想です。妄想は広がり、あれもこれもと書けそうなことが頭に浮かびます。しかしです。いざ、ワードを起ち上げると、進みません。面白いかどうかはさておき、過去の同窓会報の原稿は書き始めるとそれほど時間を掛けずに書いてきたのですが、これほど先へ進めないのは初めてです。何故かを考えました。多分、「支部だより」の原稿だからです。支部からの便りになりそうになく、近畿支部の会員の皆さまに申し訳ない…。

長い前置きとなりました。タイトル通り、(近畿支部の一会員からの便り)になります。

大阪府枚方市に住んでいます。1回目の緊急事態宣言が出てからというもの、市外へ出ることがなくなった。バス通勤も気になり、電動アシスト自転車の便利さを知ることとなった。素晴らしい。うなずいている人が何人かは

いるはずですが。2020年の5月のことだが、ウクレレを買った。これにもうなずく人がいるかも知れません。初めての楽器だったが、2,3か月触っていたら少し弾けるようになった。練習したのは「お嫁においで(加山雄三)」, アミノ酸代謝の替え歌を講義動画の中で披露したらそれなりに受けた。多少の気分転換にはなったのだろう。眠っていたギターを30年ぶりくらいに取り出してみるきっかけにもなり、指を動かすことで認知症の予防になるのではと勝手に思いながら、飽きもせずに毎日練習していた高校時代を思い出している。今年の3月、何もしてあげることができなかった卒業式に、贈る言葉をウクレレで演奏したら喜んでくれたようだった。練習するのは古い曲ばかり。アメリカというグループの「金色の髪の少女」のイントロがかっこよくて練習したギター、ジェームズ・テイラーも好きだった。You've got a friendに微笑んでくれる同世代もいるはず(キャロル・キングの作だが)。好んで聞いているギタリストの一人、トニー・ライスは2020年12月25日に亡くなった。うなずいてくれる人は少ないかも知れない。このくらいにして、個人的話題をもう一つ加えたい。今年の春頃からホームセンターのガーデニングコーナーに足を運ぶことが多くなった。植物の世話なんて全く興味が無かったのに、ほんの小さなスペースに植えられていた庭木、その他の植物の世話をし始めたのは、やはり自宅にいる時間が長くなったことがきっかけのような気がする。趣味のガーデニングを楽しんでいる同窓生はたくさんいるでしょう。YouTubeを参考に、コニファーやシマトネリコの剪定のまねごとをするようになった。枝を切るのは一種の快感で癖になると書いたら、「少し危ない」と思われたりもするのだろうか。でも面白い。きっと多くの人が笑みを浮かべてくれていることを期待します。先に登場した電動自転車でボタリング(この

言葉わかりますか?) していると、庭木達に目が向くようになってしまった。自宅にある植物の名前がわからず、近所の几帳面なおじいさんが世話している庭の似た植物をガン見して、「ジャノメエリカ」という名前を確認したこともあった。私にとって庭木の面白いところの一つは、同じ植物なのに全くといってよいほど違う形に整えられていたりすること。剪定方法の違いなどで大きく変わっているんだと思います。世話をした結果はすぐには見えないので、長くのんびりと付き合うのがガーデニングなのでしょう。今のところ、なんとか楽しめている。

だらだらと個人の出来事を綴らせていただきました。同窓会は楽しくて面白いところというのは私の持論です。コロナ禍の自粛をきっかけに、久しぶりの趣味や、新たな趣味に出会えたみたいです。好きなことなら、細かなことにも興味が向き、話も弾むはずですが。しばらく考えていませんでしたが、名簿管理などの連絡網の維持など、同窓会という組織としてやるべき重要なことがある一方で、何といたらよいのでしょうか、同窓会を楽しむためのしくみ、きっかけ、といったことは意外に身近なところにひっそりとあるのではなども考えます。たまたま会った同窓生の趣味が同じで意気投合ってことはあるでしょうが、活性化のためにどうやって活かそうなどと考え始めるとなかなか思うようには行きません。会社はリモートワーク、大学ではオンライン授業が当たり前になりました。ICTをもっと上手に活用できると良いのになあとは、以前より感じていましたが、近畿支部のWebサイトは更新が滞ってしまっています。ただ、コロナ禍の中だからこそできることもありそうです。忙しい毎日ではありますが、まずは近畿支部の活動を少しずつ再開していかねばという気持ちにもなった感じです。取りあえずは、忘年会? 新年会?

●● 福岡支部浦陵会 ●●

福岡支部浦陵会支部長の独り言 (第2弾)

会長 池田 光政 (昭57)

福岡支部浦陵会支部長をしています。昭和57年卒の池田です。本来なら、福岡支部浦陵会の総会の状況を報告するところですが、本年度も、コロナの影響で総会開催はできません。

私は、福岡県庁の業務課長を最後に退職し、現在公益財団法人 北九州生活科学センターの理事長をしています。本年度も引き続き、当センターのPCR検査について今の状況を報告します。それだけでは、面白くないと思われるので、皆さんがよく遊びに来る福岡市の最近の変化について少し紹介させていただきます。

同窓会から寄稿の依頼があった8月は、ちょうど福岡県が緊急事態宣言下で第5波の中でした。デルタ株は、皆さんもご存じのように、第4波の従来株に対してウィルス量1200倍、感染力も2倍というものです。それを裏付けるようにセンターの検査も第4波に比べて3倍の件数、検査の陽性率も最高で30%となるなど過去最高になりました。寄稿文を書いている9月中旬は、福岡県のコロナ感染者は500人程度となり、検査も従来件数の2倍、陽性率も10数%になってきています。コロナも当初はインフルエンザと同じと考えていましたが、ここまで影響力の大きいウィルスとは思いませんでした。コロナも早く終息することを願っています。

ワクチンの接種も進み、数種類のコロナウイルス治療薬も承認されていますが、ブレイクスルーやミュー株の出現など不安な材料もあり、薬剤師としてはインフルエンザ治療薬やC型肝炎の治療薬のような確実に効く治療

薬の出現を期待しています。福岡県は、久留米市と共同でバイオ企業を支援する「福岡バイオバレープロジェクト」を推進しており、このプロジェクトには、初代薬剤師として参画していました。最近の注目されている企業が久留米市でコロナ治療薬の開発を行っているバイオベンチャー企業「ボナック」です。長薬出身の後輩がバイオバレープロジェクトの責任者として「ボナック」の研究開発支援をやっています。皆さんも応援してください。

話はわかりますが、今、福岡市の天神地区が大きく変わろうとしています。それは福岡市が進めている「天神ビックバン」です。「天神ビックバン」は、規制緩和でビルの建て替えを促し、競争力のある民間企業を呼び込む市の再開発構想のことです。この構想により、皆さんも知っている福ビル、天神コア、イムズなどが次々と解体されています。

天神ビックバンの建設予定高層ビルの中で最も早く竣工されるのが、地上19階、高さ89m天神最大のオフィスビル「天神ビジネスセンター」です。

また、大名小学校跡地には、「大名ガーデンスクエア」が建設され、その中には九州初上陸ホテル「ザ・リッツ・カールトン」が入ります。

その他にも、天神コア、イムズの後にも、地上19階のビルが建設されホテル、スーパーなどが入る予定です。

コロナで福岡天神にはなかなか来れないと思います。コロナが終息すると思われる2年後くらいには天神は見上げるくらいの高層ビルが立ち並びその中には皆さんも行きたくなるような飲食店やブティックが入ります。その時には、是非、福岡で買い物をして美味しいものを食べて帰ってください。皆様のお越しをお待ちしています。

● ● 大分支部 ● ●

支部長 石橋 眞 (昭49)

朝晩は涼しくなり、秋の気配が感じられるようになりましたが、昼間はまだまだ蒸し暑い日が続くこの頃です。諸先輩はじめ同窓会の皆様方には如何お過ごしでしょうか。例年なら、「長薬同窓会大分支部総会及び新年会」の状況を報告するところですが、新型コロナウイルスの急速な感染拡大を踏まえ、2020年度の支部総会を中止致しました。特に取り立てて報告する内容もありませんが、今回は私見を述べさせていただきます。

前回の大分支部総会は2019年度(令和2年2月1日)開催で、新型コロナウイルス感染症のニュースが流れ始めた頃でした。その時はまだ現在の状況になろうとは、想像も出来ませんでした...

大分支部の総会は、新年会を兼ねて年明け1月の第4土曜日(原則)に開催し、例年25~30名の出席者がありました。2019年度総会は新型コロナウイルスやインフルエンザなどの影響から14名の参加にとどまりました。なお、私は、開催日の2日前に母が亡くなり参加出来ませんでした。事務局の陸丸くん(院平15)に同窓会を進めてもらい、長崎から山口副会長(現会長)出席のもと、ぎりぎり開催出来たところです。そして、2020年度も残念ながら開催出来ない状況にあります。2021年度の開催はどうなることやら...

さて、2021年度は、「長薬同窓会定期総会」が大分県で9年ぶりに開催予定ということで、2020年7月頃から山口会長や事務局と連絡を取りながら準備を進めました。

まず会場の確保という事で大分・別府のホテル等を探しましたが、このコロナ禍では大人数での会議や宴会等

を実施できる会場がなかなか見つかりませんでした。やっと10月中旬に「レンブラントホテル大分」を仮予約する事ができ一安心したところです。その後、年が明けても新型コロナウイルス感染症が減少しない状況や不急不急の移動自粛など人流の抑え込みが求められ、収束の兆しが見通せない状況等から本部理事会において大分県での2021年度定期総会の中止が決定され、書面での開催となりましたことを本当に残念に思うところです。

私事ですが、大分県庁を退職(平成20年)し、その後医薬品卸の(株)アステムにお世話になり13年になります。このコロナ禍において感染症拡大防止対策として、2020年4月から11月まで在宅勤務を経験しました。本来、医薬品卸での薬剤師業務はテレワークには、なじまないと考えられますが、人との接触を出来るだけ避けるとの観点から、公共交通機関を利用しては在宅勤務が認められ、半年間自宅での業務(週1~2日出勤)になりました。パソコンや電話等を使って、会社と連絡をとりながらの仕事になります。会議等はWeb(Zoom・Teams)になり、機器に弱い私としては非常に疲れた在宅勤務となりましたが、貴重な経験となりました。

現在、第5波の真っ只中、頭を抱えながら筆を執っていますが、これまでに経験した事がない非日常が続いています。大分県でも100人を超える新規感染者が発生した日もありました。9月30日には19都道府県での緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が解除される方針ですが、年末年始にかけて感染拡大、リバウンドが懸念され第6波が危惧されています。

皆様方におかれましては、ワクチン接種がかなり進んでまいりましたが、まだまだマスクの正しい使用、十分な手洗い、三密を回避するなどして感染には留意され、一日でも早く日常生活が迎えられることを願うばかりです。

●● 宮崎支部日向浦陵会 ●●

会長 福森 正剛 (平13)

このたび空席となっております長薬同窓会宮崎支部長を拝命した福森正剛と申します。大先輩である竹井正行様(昭53)よりお電話をいただいた際には、多忙を理由にお断りをするつもりでした。しかしお話をしているうちに竹井先輩が、以前県の薬務課を訪れた際にとっても親切に対応してくださった方であったこと、その時お互いにとっても良い印象を持ったことを思い出し、この先輩の頼みならばとお引き受けした次第でございます。今まで同窓会活動に消極的でしたが、今後は微力ながら力を尽くしたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

現在私はいくつかの調剤薬局の経営に携わりながら、日向市中心部に昭和9年に開局した富高薬局本町本店にて、高齢の両親とともに町の相談薬局として切り盛りしているところでございます。この店ではOTCはもちろん介護用品なども取り扱っており、調剤も細々と面分業をしているうちに、受け入れ処方箋の医療機関の数が70を超える様になり、在宅業務にも取り組んでおります。町の「薬屋さん」がどんどん失われていくなかで「最大よりも最良の薬局たらん」をスローガンに、何でも気楽に相談できる薬屋として生き残る道を模索する日々でございます。

さて私の大学時代ですが、何しろ放蕩を尽くした身でしたので入学時には既に30歳になっており、つまり新卒で入学してきた同期は干支が同じで、ちょうど年齢がひ

と回り下でございました。流石に皆の手本にならねば！と考えたものの私などより10倍も100倍も真面目に生きてきた同期を目の当たりにし、3日と経たずに手本になることは諦めました。それどころか化学、生物を苦手とするという薬学部にあるまじき輩でしたので、授業を受ける度に「どうしよう？さっぱりわからない！」と周りに教えるを請うてばかりでした。せめて生活態度ぐらいちゃんとすれば良いもののブルマンに所属し大暴れ。真面目に練習する皆を尻目に「下手でも堂々と上手そうに弾いているフリ」だの「曲のブレイクで皆で綺麗にジャンプを決める」という謎練習を繰り返しておりました。博多まで行ってメンバーとお揃いのピチピチのモッズスーツを作ったのも良い思い出です。後輩が演奏中に酔っ払ってマラカス持って踊りながら乱入なんてのもありました。そんな有様だったのですが、逆にそれが良かったのでしょうか？同期との間に疎外感や壁を感じることもなく4年間楽しく過ごし、留年することもなく卒業することができました。同期の皆には感謝の気持ちしかございません。もしかしたらただの迷惑なおっさんだったかも？と不安になりながらも、いまだに一緒に過ごした時間を忘れられない、と連絡をくれる同期もいてホッと胸を撫で下ろしているところです。

今後の宮崎支部の活動ですが、なにぶんにもコロナ禍の情勢下では容易に集まることもままなりません。懇親会を開けるようになるまではまだまだ時間がかかりそうです。まずは皆様と簡単に連絡を取れるような方法を構築し、少人数からでも集まることができたらと考えております。きっと皆様ご多忙な日々でしょうが、お手隙の時間をございましたらぜひ長薬同窓会宮崎支部にご参加お願い申し上げます。

●● 佐賀支部若楠会 ●●

三宅 秀明 (平17)

例年、支部だよりでは、支部の総会等の開催状況を報告していますが、本年度の長薬同窓会定期総会が書面開催されるなど、支部の総会等は開催できていません。

私は佐賀県庁に勤務しておりますが、令和2年度は、厚生労働省へ1年間派遣研修していました。同窓会報は現役の学生も見ていますので、官公庁にも興味を持っていただければと思います、印象的だったエピソードをいくつかご紹介いたします。

1つ目として、今後の経済社会の基本的な姿を示すものである、いわゆる「骨太の方針」の文言調整に携わることができました。

令和2年7月17日に閣議決定された「経済財政運営と

改革の基本方針2020～危機の克服、そして新しい未来へ～」では、薬剤師・薬局に関する内容も含まれています。その内容の箇所において、当初は若干異なる記載でしたが、調整のうえ、最終的には「また、これらの医療機関に対して、今般の診療報酬の引上げ、病床確保・設備整備に対する補助を通じて支援するとともに、それ以外の医療機関・薬局に対しても、感染拡大防止のための支援、移植医療等の維持推進、危機対応融資の拡充など当面の資金繰りの支援を着実に実施する。」という記載となりました。

この骨太の方針などに基づき、第3次補正予算により、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金が増額されたり、医療機関・薬局等の感染拡大防止等の支援事業が盛り込まれたりしたと考えますと、大変感慨深く思います。

このように主体的に動くこともあれば、突然の報道に翻弄されることもありました。一例を挙げますと、「政府

は7日、性交直後の服用で妊娠を防ぐ『緊急避妊薬』について、医師の処方箋がなくても薬局で購入できるようにする方針を固めた。」という10月の報道には、しばらく翻弄されました。緊急避妊薬については、「医療用から要指導・一般用への転用に関する評価検討会議」における議論などを受け、「オンライン診療の適切な実施に関する指針」において、初診からオンライン診療を行う医師は一錠のみ院外処方を行うこととし、受診した女性は薬局において研修を受けた薬剤師による調剤を受け、薬剤師の面前で内服することとされています。

(参考:<https://www.mhlw.go.jp/stf/kinkyuuhinnyaku.html>)

紆余曲折を経て、令和2年12月25日に閣議決定された「第5次男女共同参画基本計画～すべての女性が輝く令和の社会へ～」では、「予期せぬ妊娠の可能性が生じた女性が、緊急避妊薬に関する専門の研修を受けた薬剤師の十分な説明の上で対面で服用すること等を条件に、処方箋なしに緊急避妊薬を適切に利用できるよう、薬の安全性を確保しつつ、当事者の目線に加え、幅広く健康支援の視野に立って検討する。」という記載となりました。また、現在も「医療用から要指導・一般用への転用に関する評価検討会議」において、議論が続いています。

(参考:https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-iyaku_346305.html)

最後に、自分が担当していた業務とは直接は関係ないものだったのですが、「障害者差別解消法の見直しの検討に係る事業者団体ヒアリング」(日本薬剤師会、日本チェーンドラッグストア協会)に同席することができました。

(参考:https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/sabekai/group_hearing/index.html)

こうしたヒアリングも踏まえ、国会での議論を経て、令和3年5月に、改正障害者差別解消法が成立し、令和3年6月4日に公布されました。公布の日から起算して3年を超えない範囲内において政令で定める日から施行されることとされています。障害者差別解消法の施策については、当然地方自治体も関係しますし、業務を通して知識を深めることができ、法律改正の一連の動きの一部を目の当たりにすることができたことは貴重な経験となりました。

ご紹介したエピソードは、厚生労働省での派遣研修期間に経験したもののほんの一部ですが、現役の学生も含め、会員の皆さまに官公庁にも興味を持っていただければ幸いです。

●● 長崎県北支部 ●●

支部長 相川 康博 (昭48)

毎年10月近くになると、くんちのシャギリの音がテレビやラジオから流れ、学生の時には徹夜で見物の場所を確保して、10月7日の朝7時から始まる奉納踊りをお諏訪さんの石段の特等席から見物していたことを思い出すのですが、新型コロナのため今年も2年連続して中止となり、寂しい秋となりました。

この報告を書いている10月の末になり、ワクチンの効果か第6波が来るという心配がされつつも少し感染者の数も減りつつあります。

しかし、今年度の支部総会を開くかどうか判断する頃は、まだ出口が見えず中止せざるを得ないだろうなと思いき、早々に7月の時点で支部総会を中止する案内を発送しました。丁度その頃、大学から今年のリレー講座の案内が届いたので、長薬同窓会事務局にお願いして、支部会員の数のチラシを取り寄せてもらい、同封しました。また、支部総会の時に回覧して見られている大学の広報誌「Choho」に、薬学部の研究室紹介が特集されていたので、インターネットで「長崎大学広報誌」を検索して御覧頂きたいことも併せて案内しました。

そういう事情で、今年度の支部活動報告内容というの

はないのですが、今回のコロナ騒動で薬学部という存在の重要さに気付かされたので、そのことを少し書かせていただくことにしました。

私事になりますが、実は今年古希を迎えたのでちょっと楽に仕事したいと思い、卸の本社管理薬剤師を後輩の光富吉朗先生(昭52)に任せて、自宅近くの営業所の管理薬剤師に異動させてもらいました。異動間もなくして、高校生に講義するよう本社から依頼があったので、それは本社でやってくれと断ったのですが、営業所の近所の学生だからそちらで面倒見てくれと差し戻され、結局引き受けることになりました。

調べてみると高校2年生の夏休み期間中に、将来進みたい進路を今の時期に見つけるのに参考にするため、その分野の話を知りたいという趣旨の学校のカリキュラムの一環であることが分かりました。そこで、何を聞きたいのかと前もってリサーチしたところ、① 新型コロナウイルス感染症に関するワクチンや治療薬について、② 薬の性質について(メリットとデメリット、副作用)、③ 薬の将来性について(どのように変化していくか、変化してほしいか)、④ 私達は、薬とどのように関わっていくべきか(付き合い方等)、⑤ もし、薬がなければ現在の医療はどうなっているのか、という内容でした。

最初は医療関係の話を知りたいということだったので、漠然としたことでもいいのかと思っていたのですが、薬について知りたいというのなら、それなりに話さなけ

ればと思って準備しました。免疫についてと①から⑤までを説明し、理系であると思われる彼女と話をすることで、創薬の基礎を担う薬学部が果たす重要性を逆に自分が気付かされた次第でした。そしてmRNAワクチンが理解してもらえたかたずねたところ、DNA、RNAさらにはmRNAについても授業で習ったとの事、世の中変わったものと思った次第です。結果的に彼女は薬学に進路を絞っているわけではなかったのですが、どうせなら薬学部をできればわが母校を目指してほしいとの感想

を持ちました。

新型コロナが治まらないとなかなか同窓会も開けませんが、また元気な顔を拝見できる日が早く来ることを祈って今年の報告とします。

平成20年7月から2年間支部長を務められた今上 亨先生（昭25）が、令和3年7月31日に亡くなりました。先生には、公私に亘りいろんな面でずっと支えていただいたのですが寂しくなりました。ご冥福をお祈りします。

●● 長崎支部ぐびろ会 ●●

～アフターコロナと同窓会の在り方について～

会長 澤勢 瑞城（平15）

拝啓 平素より諸先輩方はじめ同窓会会員の皆様には会務へのご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

実は昨年も「新型コロナウイルス感染症とこれからの同窓会の在り方について」と銘を打ち文章を書かせて頂いたのですが、今年は「アフターコロナと同窓会の在り方について」と題しまして筆を取りたいと思います。

今年度も新型コロナウイルス感染症は私たちの生活に多大な影響を及ぼしました。長薬同窓会長崎支部においても同様でありました。同窓会総会中止を受けて私達ぐびろ会総会においても中止せざるを得ず、書面表決いたしました。

昨年も述べた内容ですが、通常は参加者だけが当日目になっている資料が書面表決のため全会員に図らずも見て頂く機会を得ました。本当に様々なご意見を頂戴したことは大変ありがたいことだと感じています。昨年書面表決を実施した折に感じた課題として、資料の配布すなわち印刷代・郵送代が膨大になると言う点でありました。総会の開催時は出席者のみに用意をするのですが、書面表決の際は会員皆様の分を御用意するとあって非常に費用の工面に四苦八苦いたしました。そこで、今回からは書面表決用の葉書に今後の資料の提供方法としてメールで送って良いかを問う欄を設けました。これは怪我の功名とも言うべき内容で、これによって翌年からの郵送代・印刷代を多少なりとも軽減することができるかと思っています。ご協力頂いた会員の皆様には誠に感謝致

します。

また、オンライン講習会・飲み会など、直接集まれない中で企業や様々な団体が活動しているのを耳にし、私達同窓会も何が大切で何を切り捨てるべきかを問われているのだと思います。そして変化に対応した後に本当に永く続いて行く同窓会の形が見えるような気がしていると言ったことを昨年投稿しておりました。今アフターコロナを見据えて、どんな変化を遂げたら良いかを考えてみました。

例えば、これまでと同様に同窓会を開催し、その中でWEB参加を新たに設けてはどうか？こうすることで諸事情あり、参加できなかった会員の皆様も参加することができるということになります。（議決権・オブザーバーとしてなどの議論は置いておく）

他にも、直接交流が可能と言うことであれば、これまで同窓会の活動は大学の外でやるものというイメージが強かったのですが、在校生との交流会を大学の中でやると言ったことも考えうるかと思っています。動くに動けなかったこの2年間はこれからの同窓会のあり方について考え醸成するにはいい期間であったと考えたいと思います。

今年度もグビロが丘の清掃と白衣贈呈式に参加させて頂きましたが、それぞれの生き方や思いは違えど同じ学窓で過ごした仲間・先輩・後輩と過ごす時間は何にも代えがたい大切な時間であることを今の世だからこそ感じた次第です。皆様には今後とも同窓会へ変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、令和4年度同窓会定期総会及び長崎支部ぐびろ会総会は6月18日土曜日に予定しておりますので皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

クラス会および近況だより

同窓会だより「参楽会健在なり」

西脇金一郎（昭33）

参楽会は昭和33年（1958）卒業生グループであるが、いつの間にか令和4年は、お互いに米寿グループに入ってきた。卒後64年経ったのである。卒業時45名の同僚も30名を切ったようで、コロナ禍のせいで、正確な生き残り組の消息もつかめない昨今である。

今回も「近況だより」の催促が来た。例年総会に出席し、その前後に参楽会を開催し、近況だよりを提出していたが、令和2年に引き続き令和3年も長薬同窓会総会はお流れ、参楽会同窓会もできなかったので、報告事項はない。そこで今回は参楽会生き残り組の内から2名を紹介し「参楽会健在なり」を紹介したい。

まず、最初に角田正之氏を紹介する。彼は3年前に調剤薬局を辞め、その後、佐賀県立の老人福祉大学に入学

し、現在は大学院1年生とのことである。その上、生涯学習をモットーに地域の歴史、文化、社会、経済などを学んでいる。運動の方ではゴルフを続けており、3年前よりエイジシュート（18ホールを自分の歳と同じスコア又はそれ以下で回る事）とホールインワンを達成目標として練習に励んでいたところ、令和3年9月に行われた武雄ゴルフクラブ開場記念杯のコンペで満85歳と同じスコア85で回り（証拠は下表のスコアを参照）、念願のエイジシュートを達成したとのことである。正に快挙であり、長薬同窓会始まって以来のことではないだろうか。

彼が令和3年正月に詠んだ一句「去年今年エイジシュートの夢つる」が現実になったのである。

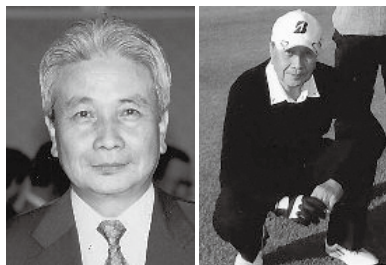
武雄ゴルフ倶楽部

Hole No.	OUT									計	IN									計	合計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9		10	11	12	13	14	15	16	17	18		
PAR	4	4	4	3	5	3	4	4	5	36	4	4	3	4	3	5	4	4	5	36	72
角田正之	6	5	4	4	5	4	6	5	5	44	4	5	4	5	3	6	4	5	5	41	85
野方道夫	4	5	5	5	7	5	5	5	6	47	5	5	4	5	4	5	4	5	7	44	91
福島祐作	5	5	4	4	7	3	5	6	5	44	5	9	5	5	5	6	4	6	8	53	97

★同伴者の福島祐作氏は長薬昭和37年卒で、塩野義製薬でも角田氏の後輩とのこと。

しかもその達成後、以下の句を詠んでいる。いや正に元気滌刺たる米寿である。彼だったら90歳のエイジシューターも夢ではない。我々も彼を見習おう。

我八五歳身心健
高揚目標重研鑽
英見透人遂達成
要健康長寿万歳



現在の角田正之氏 2016年撮影

次に参楽会代表幹事として、私・西脇金一郎の近況を報告しよう。角田氏と同様、私も学生時代スポーツマンで、特に野球では市川正孝氏（元長大附属病院薬剤部長、

長薬同窓会会長、2000年病死）、角田氏、西脇の3人は長薬3羽がらすと言われた。

昭和38年（1963）11月、長薬野球部同窓会を立ち上げたところ、会長に祭り上げられ、その後、総会の度に辞任を申し述べているが、今日に至るまで58年になるのに辞めさせてくれない。

医薬品卸業の現役を引退した後は2000年に病死した市川氏の長薬同窓会会長の後任を3期（6年）務めた後、町内の自治会長に推され、令和3年で18年目になる。それを契機にボランティア活動が広がっていった。その要因の一つに私が「新しかもん好き」の性分で50代の後半から、パソコンに夢中になり、諸グループの会計、文書、広報紙づくり等を引受するようになって、いつの間にかボランティアにはまり込んでしまった。

自治会の広報紙は2005年5月にNo.1を発行して以来、現在No.190（2021年10月号）まで1回も休んでいない。平

成19年から入会した93年の歴史を持つ長崎史談会の広報紙も手伝って164号まで継続中である。

自治会の関係では当地区連合自治会の代表として平成19年（2007）から平成25年まで6年間、鎮西大社諏訪神社の常任総代を任され、長崎くんちでは間近の祭典に接し、平成23年（2011）には当連合会の当番である神輿守町の「お下り」「お上り」の采配をさせて頂いた。

私の健康法は歩くことである。平成10年（1998）と平成11年の1～6月にかけて長崎街道（長崎＝小倉、25宿、57里、片道225km）を徒歩で往復したことがきっかけで、現在でも市内の移動には悪天候以外は電車・バス・タクシーは殆ど利用しない。月平均にすると1日平均5000歩（時間的には往復1時間）は毎日歩いていることになる。

息子が長崎市築町に調剤薬局を開局したことがきっかけで、自宅（桜馬場）・薬局間を歩いていたが、薬局は息子に任せ、現在は隣町の江戸町にあるNPO法人長崎県マンション管理組合連合会（通称：長管連）の事務所を往復しているが、距離はそれほど変わらない。長管連は全国組織のマンション管理組合連合会の一つであり、分譲マンション居住者の悩み事相談窓口の存在である。（右の画像は1か月前に取材を受けた時の長崎建築新聞の切り抜きである。）

2021年(令和3年)7月31日 長崎建設新聞

長崎市・周辺マンションの実態

長管連・西協会長に聞く



今回の調査は、長崎市内とその周辺（長与町・時津町）に絞って実施。2021年5月末時点で、エリア内にあるマンション名・所在地・戸数・竣工日を調査した結果、調査エリア内には986件のマンションが存在していることがわかった。このうち戸数や築年数が把握できたマンションは950件。

この950件を建物規模（戸数別）に分類すると、19戸以下の小規模マンションが67.3%を占めた。50戸以下の中規模マンションまで含めると81.3%となり、中小規模マンションが圧倒的に多い結果となった（90戸～80戸の

中小規模が9割以上、築40年以上

運転免許証も令和元年5月、83歳で返納した。従って日用品の買い出しも小生の役目となった。

しかし、令和2年4月に作業中、転倒し、腰を強打してから、今も歩いているが、坂道や階段がやや鬱陶しくなってきた昨今である。

以上の通り、今でも同年代としては元気な方であるが、私のモットーは「生涯現役」である。「参展会健在なり」は女性軍にもあると思う。次回をお楽しみに。了
令和3年10月吉日

「人の世や嗚呼に始まる広辞苑」

池田 修一（昭37）

朝、5時40分目覚ましのベルが鳴る。ゆっくり身体を動かして起きあがる。昨年12月から勤めはじめた精神病院[昭和4年創立500床]の薬剤科は朝8時30分が始業である。身づくろいに30分、読経が30分、第一ラジオ体操プラス自己流（腰の回転や四股をふむ）に30分、朝食をすますと7時半、車に昼の弁当とオヤツ（科員10名の為に老人の私からの愛想笑いのようなもの）を積みこんで出発である。薬剤室につくまでに軽症の患者さんと世間話をする。「藤井さん勝ちましたねえ」。薬剤室に入ると手洗い。目の前は中庭、ちょっとした竹林である。今日も名を知らぬ鳥が2羽ほど遊んでいる。



「君は成績悪いねえ」第一製薬（現在の第一三共）の面接で言われた言葉である。何年前だろうか。それでも先輩達のおかげであろう、採用となっていた。憧れの道修町！この間まで長崎で60円のうどんをすすっていた身が阪神間担当のMR。西宮、芦屋、宝塚、尼崎、見る物、聞くものすべてがculture shockで懸命に働いた気がす

る。そんな日々の8年目、「母が倒れた、帰ってこい」、私は帰鹿した。

「金よりも愛なんて君若いねえ」

「若かった直っすぐだった 馬鹿だった」

薬局の売上げはすぐ3倍になった。しかし借金も増えていた。小売業の厳しさも理解していなかった。そんな時大学の先輩が訪ねてきた。「もうすぐ調剤薬局の時代がくるぞ」市内に調剤専門薬局は1軒もなかった。ナルホド！内科、皮膚科、整形外科に囲まれた恰好のビルの角に調剤薬局を作った。ムチャである。どのDrとも前もっての内諾などっていない。Drにしてみれば迷惑な話である。勿論処方箋は1枚もこない。それでも4年間がんばった。最後は、保険金詐取があると保険薬剤師の資格剥奪という身になった。めげずに鹿児島市から40分かかる市にある盛業中の眼科と交渉し明日オープンという時、Drが「やっぱりやめた」と言いだした。しかし、眼科のすぐそばに中学時代の同級生が経営する病院があった。こちらの話は順調に進み、この地に30年以上通う事になった。その間に薬剤師会会営薬局を払い下げるから社長をやれと言われ、5年間程やり、最初の失敗薬局の時知りあった皮膚科のDrから「処方箋出すので隣

にどうか」という電話を受けた。実に14年目であった。三つをまわすと日曜日は全くない暮らしが10年近く続いた。鹿児島県薬剤師会の会長をやれとおだてられ、見事落選したのもこの頃の思い出である。

「賢いことすぐいいたくなる阿呆」

「アホはアホなりにアホをぬけんとす」

連帯保証人になって4000万円ほどの借金もあった。いつしか70歳になっていた。厚労省は毎年施策をかえる、Drの心はいつも推量せねばならぬ。二つの調剤薬局は高く売れるという話があったが、結局うまくいかなかった。どうもその方への才能が欠如しているらしい。息子2人は薬剤師とは全く違う道へといった。心あらたに調剤薬局に勤務してみた。「糖尿病についてよく知らなさすぎる」1か月でクビになった。次は県内のチェーングループに加入。今週は伊集院、来週は申木野という具合である。電子カルテの打ち込みに慣れた頃、他のチェーンから引き抜きがあって、そちらへ移籍。管理薬剤師として観ると、この薬局は赤字、閉鎖が賢明であろう。上部に進言して閉店。同時に失職した。

M市にS' 化工というクエン酸製造工場があり、管理薬剤師として就職。工学部出身の女性達に「比重って知ってますか」「モルというのはねえ〜」とか言われながら、粒度試験に励み（励むという程むつかしいものではない）パソコンに数字を打ち込み大部上達した頃、社長から「すみませんが、以前予約されてた薬剤師さんがいて〜」「ああいいですよ」又無職になった。ハローワークと薬剤師会に顔を出して薬剤師募集の調剤薬局を訪問しても「80歳ですかあ〜」と体よく断られる。

もと問屋にいた人が精神病院ならありますが、という話をもってきた。事務長に会うと「鑑査ができればいいんですよ」と、昨年末に採用となった。現在入院患者420人、薬剤師7名、調剤助手2名で、私は幕下以下の序列である。私以外の薬剤師は全員電カルが使用可能で、始業と同時にパソコンに向き合いDr（約15名）と会話しながら、2週間分の処方箋を打ち出す。決まれば瞬時に自動分包機が作動して、一包化された予製剤がでてくる。この他に臨時処方箋が1日約100枚、一般外来処方箋、入退院時の薬品鑑別作業、注射・輸液の払い出し作業。午後からは病棟に赴いての服薬指導がある。アーテン、アレビアチン位しか知らない私にとって最初の2か月は恐怖と緊張であった。鑑査が終了と、氏名と日付の入った鑑査済印を押す。一包の中には白い錠剤が7~10種、ピンクが1、黄色が1位が通常である。捺印時に「神の御加護がありますように」と呟いていたら、隣の薬剤師が「池田さんはクリスチャンですか」と聞いてきた事があった。最初の半年は1か月に1回あった私の鑑査ミスもこの2、3か月ないようであるが……神のみぞ知る。である。

朝から坐りっぱなしの1日なのでよいクッションを張込んだ。腰痛予防に10年以上前にはじめた水泳とトレー

ニングセンターに、17時30分終業と共にかけてつける（車で20分）。帰宅は19時30分になるが、一応晩メシは喰わせてもらっている。10年以上の独学クロールを少しはうまくなったかと思い、先日3,000円張込んで動画を撮ってもらったが、DVDを観てガックリ...理想（イメージ）の半分の完成度であった。

今のところ薬剤科長からのお咎めもないのであと2、3年勤務できればと思うが、このこと1年毎の体の衰えは想像を上回っていくので何とも心もとない。しかし今でも薬剤師職能を100%発揮している訳でなくオヤツ配膳師や笑い配膳師の仕事をやって喜ばれている部分もあるのでメンバーから嫌われなければヨロヨロしながら、半病人の感じで勤務できるかもしれない（マスカア!!）。

MR、小売業、調剤薬局、病院勤務、工場の検査部、精神病院の薬剤部と渡ってきて、財産・名誉には無縁の暮らしだが、沢山の人と付き合ってきたなあと思う。若い薬剤師さんの侮蔑のまなざしに強いのも特質である。もともと私は物事を深く分析してとことん考える事ができない（=能力がない）性格であった。60歳位まではそれを自分の欠点と考え、叱咤激励し、向上しようとしたふしがあった。しかしフト考えてみると、この欠点あればこそ80歳すぎまで恥を恥ともせず生きてきたのではないだろうか。

80歳をすぎた頃から今日も人様に挨拶をきちんと。できれば優しく、人に笑ってもらえるジョーク、詮ない事を人に言わない、うまく眠れるように思うようにしてきた。カミさん曰く「あなたが飲まなければ億ションが買えたのに」「私が体をはって飲んだから反面教師として息子2人はアルコールをとらないではないか、それに俺は億なんて稼いでいない」未だに夜の放浪、競馬、将棋、麻雀、magic、読書は現役である。（ex. 岸政彦著「断片的なものの社会学」おすすめ!!）いろんな遊びを試してみたが、一番面白く、楽しい、そしてあきないのは学問であろう。それに気付いたのは81歳であった。アレツ、これどうなっているんだろうという疑問からその道一筋に研究し、過ごしていけば、辛い、悲しい事ばかりだろう。しかも成功は少ない。

でも、誰から強制された事でもなく、一人で築いていく道は芸術になる。私は大海を薬剤師という木片（失礼!）につかまって漂い、生き延びさせてもらったと思う昨今である。有難うございました。 一終一

「あの世にもあの世ってあるやろか」

「方丈記わかる頃には介護4」

追記 ①病院は近いうちに自動鑑査機（700万円）を購入予定。

②文中の川柳は拾い集めたもので作者名がわかりません。明記がないことをお詫びします。

河野信助先生と生薬学教室の思い出

木原 隆英 (院昭43)

河野信助先生(昭17)の訃報を知ったのは会報第59号(2019)でした。突然の悲報に接し誠に痛惜の念に堪えません。生薬学教室から先生と歩んだ思い出を経時的に振り返ってみました。

私は、院生2期生(9名)として1966(昭和41)年4月、昭和町の校舎(元長崎師範学校男子部校舎)3階の生薬学教室を訪れる。トイレが男女共同にびっくり。早速、河野信助先生からビスフラボン(二重分子フラボン)の説明を受け、解らないままにイヌマキ葉のビスフラボンの研究がテーマと知らされる。初めに、先生宅で歓迎の夕食会をして頂く。教室には他に高取治輔教授(大14)、大橋裕先生(昭29)、三浦博史先生(昭33)、院生の先輩と4年生(女性6人)がおられた。週明けに、イヌマキ葉の葉むしりから、三浦先生の懇切丁寧な指導のもとに、実験が始まる。連日有機化学を中心にゼミ、ゼミと続き、輪読では、河野先生から、木原君もう少し英語をやらんといかなあと、更に、大学院生はもっと勉強せにゃあいかんあと言われ、冷や汗をかく。忙しいなか卓球や岩屋山のハイキングは楽しく、また、教室を問わずビールなどを飲みながら語り合ったことが懐かしい。10月、先生と4人、白衣姿で大きな麻袋を持って、クサギの採集に出掛けると、近所の人にイヌ取りに間違われ大笑い。私は、抽出エキスを爆発させ実験室に散乱したり、還流中に水が止まっていたりと実験の失敗は続き、先生の小言は絶えなかった。年明けに、もう一年になるデータが出てよさそうだがと発破をかけられる。4月からは院生の後輩と4年生(5人)となる。大橋先生のお世話で、長崎造船大学(現:長崎総合科学大学)附属高校2年生の化学を担当する。初めて教える立場になり勉強になりました。さらに、校長先生が父の山口師範学校の恩師とわかり、そこから河野先生が小学5年生の時父が教生で、お父さんを知っているよ、父も先生を知っているとのことびっくり。先生が急に近くに感じられたが、ゼミ、実験では手を抜くと、大声で罵声を張り上げて叱られた。10月、学会発表命令が出て、長崎くんちどころではなくなった。11月、先生と一緒に九州大学薬学部へ、日本薬学会支部第55回例会で同僚3人と緊張しながら無事に発表を終える。翌年2月、修士論文作成でもこっそり絞られる。ここでも三浦先生ご夫妻に大変お世話になり、無事に論文を提出。3月、最後に、河野先生宅で送別会をして頂き、葉桜の長崎から梅の咲く信州松本へ向かう。

'68年4月、キッセイ薬品に入社。毒性研究室に配属され、天然物化学から生物学に転身する。8月、福岡の日本生薬学会で、河野先生と大橋先生に再会し、夕食会で、毒性研究の仕事を夢中で話す。木原君良いところへ就職したなあと言われほっとする。'73年2月、京都大医学部解剖

学教室に内地留学中、三条大橋近くで自転車の私と歩いている先生と偶然にお会いする。先生は教室員の学位論文を持って京都大薬学部へ行く途中でした。立ち話で近況報告の交換をする。先生は山口の薬局が火事にあい、忙しいとのこと少しやつれておられた。私は、5月に結婚。'78年8月、失業中で、京都大に三度目のお世話になっているとき、河野先生が京大生のご息と研究室に来られる。ニコニコされた先生と話し込んでいるうちに、古い研究室の名札を見ながら、この先生は知っているよと懐かしそうに眺めて昔を思い出しておられた。3か月後、私は近畿大医学部へ就職し人体解剖学、発生学を担当する。'87年12月、ハワイ、ホノルルでの日米合同薬学大会に参加する。ハワイホノルルに着くとポロシャツ姿の先生とホテル前でばったりお会いする。先生が、今朝着いたのか。そこで寝とけと、言われるままにホテルのロビーで寝る。その後先生と会うことは無く、水着で泳ぐ女性を見ながらポスター発表、人との会話も少なく帰国する。後で参加名簿から奥さんとご一緒だったと知る。'88年4月、先生は定年退官後山口市に帰られ、薬局をされるとの挨拶状を頂く。後日、父の便りで、先生が防府市の自宅に来られたと、父も嬉しそうだった。'91年9月、学位論文(英文)取得し、論文を先生に送る。激励のハガキを頂き、少し恩返しが出来たかなと思った。2003年3月、日本薬学会第123年会、長崎市で、私の発表ポスターを見ておられた先生と久しぶりの再会を果たす。先生が80歳、私が4月に60歳に。親しく話が弾みました。先生は、薬種商向けに生薬学の講師をしておられること。ご家族のことを嬉しそうに話された。その時のお姿を今も懐かしく思い出されます(写真)。



2003年3月28日 於 日本薬学会(長崎) 左が先生

16年後に先生の訃報をお聞きする。主人はお店(薬局)が好きで、連れて行き夕方まで名だけの店番をしておりました。本当にかわいい人になり、いとおしくなりました。奥さんの便りを頂き、少し安堵致しました。河野信助先生から叱られながら、多くのことを学び、更に、生薬学教室および長薬の恵まれた環境のなかで過ごしました。お陰様で日本先天異常学会の名誉会員に、日本毒性学会の名誉トキシコロジストにして頂き、先生をはじ

め、みなさんに感謝しております。河野信助先生のご冥福をお祈り申し上げます。

なお、会報第59号で、大変お世話になった松本康裕先生(昭24)、同期の夏木令子さん(院昭43)、当時教室の4年生でした五弓(河村)明枝さん(昭42)の訃報を知り、当時の懐かしいお姿が思い出されます。3名様のご冥福を重ねてお祈り申し上げます。

合掌

昭和50年卒同窓会大分開催に向けて

上ノ段 茂(昭50)

新型コロナウイルス緊急事態宣言などの規制措置がやっと解除される今日この頃です。(9月末日)

本同窓会は、2000年の長崎開催でスタート、2005年は福岡、2010年の長崎からは各地域持ち回り(北九州、札幌、東京)で隔年開催されています。2018年の長崎ランタンフェスティバル後は2020年東京オリンピックを避けて滋賀(大津)で開催する予定でした。

ところが幹事の長田和敏さんからコロナ感染発生で翌年に延期と通知があり、今夏になって残念ながら今年も開催できるような状況にないとのことで中止の連絡がありました。

その際、来年は大部分が70歳(古希)を迎えることからできるだけ多くの皆さんが参加しやすい九州で、ぜひ大分(湯布院)で開催してほしいとの強い要望があり、大分の同窓生と相談して引き受けた次第です。

私も旅行好きでこれまでも各地で開催される同窓会を

利用して皆さんと、最近では家内と同窓会の前後に周辺の名所旧跡を訪ねることを楽しみにしてきました。残念ですがコロナ禍で今年の関西方面の旅は実現できず、近場で我慢している次第です。

コロナ感染もワクチン接種の普及や治療方法、治療薬の開発も進んできており、来秋(2022年)には湯布院あたりの開催も可能でないかと思えます。

これから大分の皆さんと開催場所を検討してまいります。来年の開催が可能となりましたらご案内いたします。

大分県は海の幸、山の幸、温泉地も多数あります。別府・湯布院温泉の街並み散策、また、学生時代の研修旅行で訪れた久住山、鶴見岳の自然やゴルフを楽しむのもいいと思います。

人生の節目「古希」を皆さんと楽しみながらお祝いできたらと考えています。

「S55卒 同窓会」について

重松 敏彦(昭55)

卒後、計3回開催されています。第1回、第2回は長崎で開催し、第3回は5年前に大阪で開催されました。第3回以降は「誰もが同窓会の開催年を忘れないように」と、オリンピック開催年に同窓会もセットすることとなり、昨年の第4回は東京で開催する予定でした。

一昨年12月には東京在住の方々による話し合いがされたと聞いております。しかし、「昨年の開催は新型コロナ

のため実現困難」となりました。

薬剤師として現役でご活躍の方々も多くいらっしゃることを思えば、新型コロナのためにそれぞれの職場で繁忙をきわめていることと思います。一日でも早く新型コロナ禍の終息を願う毎日です。ぜひとも平穏な生活を早く取り戻し、第4回の開催を実現したいものです。

そして「定年後の生活はつれづれ？」

重松 敏彦（昭55）

私は長崎県職員（県庁薬務課、保健所、県立病院等で勤務。それから下水処理場にも勤務、これが一番楽しかったかも。）を退職した後、医薬品卸売販売会社に勤務する傍ら、家内と学習塾を始めました。17:00までは会社勤務、19:30からは学習塾、と忙しい毎日です。

所謂、「二足の草鞋」の日々を送っておりますが、いざ始めてみるとこの「二足の草鞋」が予想以上に楽しく、なかなか居心地の良いものです。一日のうちに気分を切り替えることで、現役の時には感じなかった新鮮さと充実感を味わっております。

学習塾をするきっかけは長女の高校受験でした。長女は親友と同じ県立高校を目指して日々頑張っておりましたが、果たして長女は何か志望校に合格したものの、長女よりも成績の良かった親友が予想に反して不合格となり、その時に長女が流した涙を見たことが契機となりました。その後、二人は別々の高校（県立と私立）、別々の大学（二人とも国立。親友は私立高校から国立大学に見事合格。やはり親友は優秀だったのです）。そして就職、結婚してからも現在までずっと連絡を取り合っていることを思うと、同じ高校で楽しい学園生活を共有できなかったことはいかに残念なことだったか容易に想像できます。

「真面目に努力しても合格できない、ということにならないように」との思いで、「真面目に努力すれば、県立高校に合格できる学習塾」をスタートしました。

学習塾を始めるにあたってもう一つ。私自身が中学、高校で教え込まれた英語、数学がしっかりしたものだったので「きっと役に立つはず!!」との期待があったからです。当時、私の卒業した中学、高校は西日本でかなり有名な中高一貫の私立進学校だった（現在でもかなりハイレベル）ので、「私の習った英語、数学が公立中学校の生徒にどのくらい効果があるか?」・・・も興味津々でした。

結果は予想に違わず抜群の効果がありました。英語、数学ともに僅か2～3か月で、学年200人中30番～60番くらいアップして見事県立高校に合格した生徒が多数います。

塾に通い始めて6か月くらい経つと100番アップする生徒も何人かいました。中には学年200人中1番、2番になる優秀な生徒もいました。10番以内に3～4人入ることも・・・。たとえ平均点に届かない成績で「県立普通科高校は心配」と思われた生徒でも、何人もが合格できました。

その中でも最も印象に残っている生徒さんを紹介します。

県立普通科高校に十分合格できる成績にもかかわらず工業高校を志望する男子生徒で、教えてみると英語も数学もとても筋が良いのですが、「大学には行かずに早く就職したいから工業高校を志望します。」とのことでした。ところが、当塾に通ってわずか一か月あまり経過した頃、めきめきと実力を伸ばして当塾で1番になり、中学校でも200人中10番以内の成績、模擬試験でも県立難関普通科高校が90%以上の合格率の判定となり、その後、県立難関普通科高校、九州大学、東京大学大学院へと進学しました。本人とお母様が大学院合格の報告に来てくださったときには、お母様は感激のあまり涙目で「こちらの塾での指導がきっかけとなりました。」とのことで、私は大変感激しました。まるで私が指導した選手がオリンピックで金メダルを取ったような気分になり感動した次第です。

これらのことから、「かなり能力のある生徒なのに平均より少しいい成績でいる自分に何ら感じず、努力する方法もよくわからないで、実は自分が抜群にできることにも気づかない」まま、進学している現実がかなりあるのではないかと思います。

私達の学習塾で「中高一貫の有名私立進学校仕込みの英語、数学」を学習した生徒さんたちはさぞかしラッキーだったでしょう。大袈裟かもしれませんが、人生が大きく変わったのではないかとも思っています。こんなところに「やりがいを感じる」今日この頃です。

新型コロナ禍が一刻も早く終息し、健康で平穏な生活が訪れますように。

「故小林教授とブラックコーヒー」

都知木 睦（昭56）

大学時代、試験や資料等大変お世話になった同級生の山口正広君（昭56）から学年理事になってくれと言われたものの、コロナで卒後40周年の同窓会もやっていないし、投稿できる内容がないので現在の自分の生活に影響を与えていただいた故小林五郎教授（特）のことを語

り、教授をご存知の方と共に思い出を分かち合いたいと思ひ、筆を取った。

大学に入ってもなかなか自分に合う明るいキャラの人がいなく寂しい思いを感じていたところ、「ヤッカ」なる場所に面白い人物が集まっていると聞き、1年生の頃

から通い始めた。

そう薬学部名物小林教授が率いる薬化学軍団である。

新入生にとって大学の教授と言うと遠い存在だと思っていたが、お酒が飲めない小林教授の学生とのコミュニケーション・ツールである麻雀を通じて親しくしていただき、先輩たちとも仲良くなり、大学生活が好きになった。

小林教授は研究者としてもすごいのであろうが、教育者という面を強く持たれていたのだと思う。

大学に溶け込めない学生の情報を得ては「薬化に連れて来い！」の一言で教室に呼び、学生の支援メンバーをつけて卒業、就職まで多くの学生を助けていただいた。

かくいう私も単位こそ真面目にとっていたが（山口君のお陰です）東京出身のべらんめえ口調で「お前のようなふらふらした奴は早く就職しろ！」とか私の親へも「息子さんみたいな子は早く嫁を持たせた方が良い」とかありがたいご助言をいただいたものだ。

小林教授のお勧めで長崎市への就職が決まっていたにも関わらず国家試験に2回も落ちており、教授自ら東京

の国家試験予備校を調べて勧められた。

正直行きたくなかったので親に費用の迷惑をかけると言い訳したところ「バカやろー！一人息子の就職がかかっている時に金をけちる親がどこにいるかー！」と一喝された。

お陰様で東京の予備校で朝から晩まで2週間みっちり勉強して無事受かることができ、市役所にも就職できた。

そんなふうに学生を愛する小林教授はブラックコーヒーが好きで、教室にはいつもポットに熱々のコーヒーが用意されていた。

この影響でブラックコーヒーが好きになり、結婚後も砂糖を入れていた家内も私に影響され、すっかりブラックコーヒー党になっている。

毎朝、家内とブラックコーヒーを飲むたびに、コーヒーの暖かさと共に小林教授の熱い思い出がよみがえってくる。

小林教授ありがとうございました！



「37年目」

坂本 純（院昭60）

早いもので、1985年3月に今はなき国鉄の夜行寝台列車で2年間の大学院生活を過ごした長崎を離れてから37年目になります。

研究職の国家公務員として就職して大阪に赴任したはずが、何故か、行政技官として厚生労働省本省で仕事をするようになり、さらには他省庁等への出向によって事務官になったり、専門行政職になったり、さらには特別司法警察職員としての勤務等々色々な経験を経て、独立行政法人医薬品医療機器総合機構での勤務を事実上最後の勤務として、定年の年齢に達した2019年8月に厚生労働省を退職いたしました。

2019年9月からは、ご縁があって、静岡県立静岡がんセンターに臨床研究支援センター長として勤務しています。

静岡がんセンターは、地方公営企業法が全部適用されている病院であり、静岡県が推進する「ファルマバレープロジェクト（富士山麓先端健康産業集積プロジェクト）」の中核機関になっています。

静岡がんセンターは、基本理念として「患者さんの視点の重視」を掲げ、「がんを上手に治す」、「患者さんと家族を徹底支援する」、「職員が成長、進化を継続する」ことを理念としています。「理想のがん医療を目指して」を合い言葉に設立された病院であり、がん患者診療数は全国トップスリーに位置し、2020年4月にはゲノム医療中核拠点病院の指定（全国で12病院が指定）も受けています。いわゆるがんの治療に関する臨床研究のみならず、

抗がん剤の副作用対策に関する臨床研究等、色々な臨床研究に積極的に取り組んでいます。

静岡がんセンターは、JR三島駅の北方約5kmに所在しており、新幹線を使えば、東京や静岡市からの通勤も可能です。私も横浜の家から新幹線通勤をしています。月75,000円まで通勤手当が支給され、新幹線通勤を行っている職員は結構います（新幹線を使えば、三島は東京への通勤圏になっています）。

静岡がんセンターでは、臨床研究を支援するスタッフの充実強化を図るべく、実務経験を有するデータマネージャ（https://www.scchr.jp/careers/full_time/clinicalresearch_dm.html）やCRC（https://www.scchr.jp/careers/full_time/crc.html）の募集を行っています。もしもご関心があるようであれば、静岡がんセンターのHPをご覧ください幸いです。

組織はそこにいる人材が命ですが、適切な方の採用の難しさを感じているこの頃です。

同窓会長の山口先輩とお話しした際に、同窓会誌に投稿するようにとのお言葉があり、考えてみると、長崎を出て37年目かと少々感じ入り、お目汚しの雑文を投稿させて頂いた次第です。

この投稿の機会を与えてくださった山口先輩に感謝申し上げますとともに、同窓の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。

科学の力を事件の解明のために ～ 科捜研は、こんなところですよ～

塩田 英雄 (昭60)

世の中がコロナ禍でかき回されている中で、皆さん、どうお過ごしでしょうか。社会生活がいろいろと制約を受けていますが、私が勤務している長崎県警の科学捜査研究所（科捜研）も感染拡大防止策を講じながら安全で安心な長崎県を目指して、日々、事件の解明のため鑑定や研究を進めています。

私は、大学院修士課程を修了後、35年間、科捜研の一員として仕事を続けてきました。今、振り返ると、苦勞もありましたが、科捜研の仕事は県民の安寧のため価値のある仕事であり、やりがいのある仕事だと思います。そこで、後輩の皆さんに、就職先として科捜研にも目を向けてもらうべく、今回、科捜研を簡単に紹介させてもらいたいと思います。

科捜研は、各府県の警察に設けてあり、警察署を統括する警察本部に所属しています。長崎の科捜研は、長崎駅近くで県庁の隣に建つ県警本部庁舎の中にあります。科捜研は、府県によって規模は異なりますが、法医、化学、物理、文書、心理の5つの部門に分かれていて、各部門の主な業務内容は、

法医・・・DNA型鑑定、骨、毛髪等の鑑定

化学・・・覚醒剤、麻薬、睡眠薬等の薬毒物鑑定、油類、塗料、金属等の工業製品の鑑定

物理・・・火災、労災、交通事故に関する鑑定、銃器の鑑定、画像解析

文書・・・筆跡、不明文字、偽造通貨、印影等の鑑定

心理・・・犯罪事実の記憶についての検査、犯罪プロフィール

となっています（長崎の科捜研では、文書と心理は同一係）。

薬学部の卒業生の場合、就職先として対象になるのは、法医と化学の2つの部門になると思います。ちなみに長崎の科捜研では、所長の私以外に、法医係に5名、化学係に2名の長大薬学部出身者が在籍しており、皆、熱心に仕事に取り組んで、鑑定技術者としての責任を果たしています。また、多くの所員が社会人大学院生として研究

を行い、博士号を取得しています。重大事件が発生すると、事件現場に臨場することもあり、至急の鑑定要請で休日、深夜の呼び出しもありますが、普段はワークライフバランスを尊重し、働きやすく、活力のある職場づくりが図られているところであり（少なくとも私が在職する間の長崎の科捜研は）、ブラックな職場ではありません。

今日、犯罪を起こした人を裁判で有罪とするには、客観的証拠が不可欠とされています。そのため、科学的な証拠を挙げる科捜研は、その責務が年々大きくなってきており、警察組織の中でも一目置かれるような存在になっています。長崎の科捜研は、平成30年に本部庁舎が現在の新庁舎に移転したことにより、広くて新しい検査室が確保され、良好な環境下で最新のDNA型鑑定機材や薬毒物分析機材を活用して、県下の警察署からの鑑定囑託に応えているところです。

科捜研の職員採用は毎年あるとは限りません。採用募集がある場合には、各府県の警察のホームページ等に掲載され、詳細については各警察本部の採用担当係で教えてもらえると思います。昨年度、長崎の科捜研では、所員の新規採用のためリクルート活動を行ったのですが、長大薬学部からは採用試験の受験者がいなくて、少し寂しく思いました。

近年は、「沢口靖子」氏のおかげで科捜研の世間における認知度が上がり、採用試験も高倍率になっていますが、科学（薬学）の力で事件の解明に貢献し、社会の安全を守っていきたく思う方は、科捜研の採用試験を受けてみてはいかがでしょうか。



つれづれなるままに

山口 綾子 (昭60)

庭の金木犀がほのかによい香を漂わせ始めました。皆様が会誌を読まれる頃は、年の瀬も押し迫った慌ただしい頃でしょうか。同窓会会長が寄稿が少ないので書けと

言うので紙面埋めに書かせていただきます。

今年は、細木かおり（先代は細木数子）の六星占術で大殺界の年です。以前よりこの星占術を秘かに信奉して

いましたので、とても用心して過ごしています。あと今年も2ヵ月ですが、致命的な失敗を起こさないように祈るばかりです。

数年がかりで準備してきた学年同窓会を去年は延期し、今年オリンピックは開催されましたが、来年以降同窓会ができるものか、現在は思案中です。

コロナ禍は、本当に人の考え方を変えてしまいました。熱が出て具合が悪いのに医療機関から断られ、お店に行きたいのに、来てくれるなどお店から言われる。学校や会社に行きたいのに、家にいろと言われる。オリンピックでは多様性を尊重しようと言うのに、感染対策はしっかりしてと大上段に言われる。考えれば考えるほどどうしていいか分からなくなります。白黒はっきりさせたい性格の私にとって混沌は苦でしかありません。

これまでの学生生活と、大学教員としての仕事

小川 昂輝 (平27)

平成27年卒の小川昂輝と申します。このたびは寄稿の機会を賜りありがとうございます。私は、2021年3月まで長崎大学の博士課程に在籍しており、4月より、名古屋市立大学の薬学部で教員として勤務しております。2011年に薬学部に入學してから、通算して10年の間、長崎大学に在籍し、3月によく学生生活を終え、現在社会人1年目として奔走しています。学生時代の振り返りと現在の仕事の紹介をさせていただきます。

振り返ってみると、大学生活10年のほとんどは、研究室で過ごしました。川上 茂教授(平7)が主宰する医薬品情報学研究室に在籍し、研究内容は、薬剤学のドラッグデリバリーシステムという分野で、今もこの研究を続けています。川上教授には、約6年間、研究に関して厳しく指導していただき、いろいろな経験をさせていただきました。共同研究などで他大学の先生とコミュニケーションをとる中で、社会人としてのマナー・常識など、研究以外のことも多く学ばせていただきました。大学院では、1日の大部分を研究室で過ごすことになりましたが、同期の仲のいい友人に恵まれ、充実した研究室生活を送ることができました。博士課程に進学すると、同期の大半は就職してしまいましたが、先輩や後輩が仲良くしてくれたおかげで無事、最後までやりきることができました。

2018年に薬剤師免許を取得してからは、千歳町のどりのむ薬局でアルバイトをさせていただきました。週1日土曜日だけの勤務でしたが、実際の医薬品に触れて、それを服用する患者さんと直に接することができました。これは大学での基礎研究だけでは得られない貴重な経験でした。特に、現在私が所属する研究室は、医薬品の性

社会情勢のほかに、悶々たる原因はもう一つあります。来年は還暦です。働き方を含め今後どう生きたいか考えなければいけません。そんなに大げさに考えなくてもと言われそうですが、考えていきたいと思っています。

科学は進歩しています。治療薬も研究、開発され、WITHコロナも確立されるでしょう。ワクチン開発も遅いと言われながら、異例の速さで成し遂げられました。薬学という同じ分野の職域にいることに誇りを感じます。と同時にジェネリック医薬品業界の問題に無関心ではいられない責任も感じました。

つれづれなるままに、取り留めの無い紙面つぶしの内容になってしまいました。どうぞ皆様、健康第一、ご自愛くださいませ。

状、味などを解析し、より服用しやすい剤形を開発する、医療薬剤学の研究も行っているため、当時薬局で培った臨床的経験が今になって生きてると実感します。

現在、私は、尾関哲也 教授が主宰する、名古屋市立大学の薬物送達学分野で助教として働いています。准教授の田上辰秋 先生と私を含め3名のスタッフで運営を行っています。研究分野は主に製剤学を中心とした医薬品の物性に関するものです。私自身の研究分野と非常に近いですが、まだまだ分からないことだらけなので、日々勉強しています。大学教員として、研究はもちろんのこと、講義や学生の指導などの教育を行っています。慣れない仕事で日々過ごすのが手一杯ですが、自分の興味のあることをとことん追求できる、非常にやりがいがある仕事だと思っています。尾関教授には研究に関してとても自由にやらせていただいております、自分主体の研究も少しずつ軌道に乗り始めています。

さて、先日、長崎大学の卒業生講演会に外部講師としてよんでいただき、1年生の学生や、就職活動をひかえた修士1年生の学生さんとお話する機会をいただきました。まだ社会人1年目で、大した経験もしていないので大それたことを話すことはできませんが、大学教員としてのやりがいや苦勞が伝われば幸いです。同日に講演させていただいた、製薬企業の長大OBの先生のお話しもとても感銘を受けました。

最後に、学生時代にお世話になった先生方、学生生活で苦樂を共にした友人、先輩後輩に心より感謝申し上げます。学生時代に培った経験を生かしてこの通り元気で頑張っておりますので、今後ともご指導よろしくお願ひします。

近況報告 ～コロナ禍での結婚式～

林田 颯志 (平28)

私は現在、長崎みなとメディカルセンターで調剤業務を担当させていただいております。色んな経験をさせていただき、医薬品の管理と供給の難しさを痛感しております。当たり前のことを維持し漏れがないようにするために様々な対策を模索しながらの仕事は大変ではありますが、やりがいがあり比較的楽しくお仕事させていただいています。今年は業務とは別にご指導をいただきながら日本病院薬剤師会雑誌10月号に論文も掲載させていただきました。ご興味があれば見ていただけたら幸いです。これからも社会の役に立てるように論文を書きたいと思っています。そして去年に引き続き新型コロナウイルスが拡大と収束を繰り返す中で、私事ながらルークプラザホテル長崎にて結婚式を挙げさせていただきました。

私の職場は感染制御のために厳しい院内規定があり、外食・会食・県外への移動は原則禁止となっています。他の病院と比べても厳しい規定であり、職員や家族以外の方と会食することは昨年の5月頃から禁止されています。感染を防ぎ患者さんを守ることは一番大事な事ですが、プライベートの行動を制限されることは想像以上のストレスがあり、友人と顔をつき合わせてご飯を食べられないことは本当に辛いものでした。そんな中で10月に結婚式を挙げさせていただきました。もちろん、結婚式は会食の場であり、院内規定で認められていません。私は2週間の自宅待機となりました。この近況報告もこの期間を使って書いています。職場の上司や同僚はリモートで参加してくださいました。薬剤部部長の樋口則英様(院平16)にはリモートにて祝辞をいただき、失礼ながら音声トラブルなどが発生し聞き取れない部分もありましたが、身に余るお言葉を頂戴いたしました。友人スピーチは長崎大学薬学部の同級生である上原渉君(平26)にお願いし、PowerPointを使ったリモートならではの素晴らしいスピーチを沖縄県よりいただきました。

披露宴の余興はYoutubeやInstagramなどのSNSでご活躍されているダンスパフォーマーのBiBiさ

んにお願いしました。ファンである妻がDMでオファーして東京から来ていただきました。圧巻のダンスパフォーマンスで参加してくださったゲストの方を盛り上げてくれました。

SNSやリモートなど昔ではなかなか考えられなかった環境の時代についていくのに必死ですが、妻に色々教わりながら頑張ろうと思います。

披露宴会場では久しぶりに会う大切な友人や親戚と会食し懐かしい気持ちになりました。心から楽しく、数年前の日常が戻って欲しいと切に思いました。やはり私はリモートよりも実際に会うのが性に合っています。また、披露宴に参加していただいた方からたくさんの祝福のお言葉をいただきました。今後の人生を歩んでいく上での大きな支えとなることと思います。これから夫婦で協力しながら笑顔の絶えない思いやりのある温かい家庭を築いていきたいと思っています。

最後に人手が足りない中で2週間の自宅待機期間を許してくださった職場の上司の皆様、本当にありがとうございました。今後とも夫婦共々頑張らせていただきますので、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い致します。



近況報告

橋口 啓吾 (令3修1)

新型コロナウイルスが流行してから生活様式が一変して約2年が経過して、私の生活も少しずつ変わってきました。大学の食堂や公共の場所ではパーティションが設置されていることが普通になり、外出する際にはマ

スク、外出先での入店時のアルコール消毒等感染防止策が必須になっています。2年前にはこのような生活を強いられるとは想像もしていなかったです。講義では対面授業だけだったのが、リモートでのリアルタイム講義やオ

オンラインで自分の好きな時間に講義を受けられるオンデマンド方式の講義といった時代に合った講義方式をとられる講義の割合が大変多くなり、新型コロナウイルスが私たちの生活に大きく影響をあたえていることは周知の事実のことと思います。

また、私の休日の過ごし方も大きく変わって新型コロナウイルスが流行する前は夏休みや、春休みの連休を利用して旅行するのが楽しみのひとつだったのですが、コロナの影響で家にいる時間が多くなり、新しく身につけたいスキルとして料理教室に通うようになりました。実際、平日は朝から夜まで研究室にいますので料理はしませんが、休日には料理を作って食べるという流れで楽しんでいます。料理教室の先生が大したことなくても「すごい！上手！うまい！」と褒めてくれるので自己肯定感が上がって、日常の嫌なことやストレスを忘れて楽しめるのがとても楽しいです。失敗しても「こうすればいいよ」と助言をくれるので料理教室が楽しみになっています。家での自炊に活かせるように特訓中です。最近できた休日の過ごし方で登山も始めました。登山は時間を忘れられるし、頂上に登ってからの景色を達成感とともに味わえるのがいいところです。研究室に配属され

運動不足になっていたのも、運動不足の解消を目的として登山を始めるのはおすすめです。また、山に登る人が少ないのでコロナ禍の今の時期に合っているかなと思います。少ないとは言いつつも登山での出会いもたくさんあり、外国人の登山客とコミュニケーションをとったり、写真家の方と知り合いになれたりしました。意外と山では様々なジャンルの人と関わることができる場所かもしれません。

修士1年で実験や講義、インターンシップなど忙しい時期ではありますが、時間を見つけてこれらの趣味を続けていきたいです。この記事を書いている2021年10月現在、全国的に新型コロナウイルス感染者数がピーク時に比べ大幅に減少しており、長崎県でも1日の感染者数が0人で抑えられた日もあるほどです。長崎大学の学生の県境をまたぐ移動や会食の行動制限も解除されはじめ、以前に比べて多少は我慢することなく学生同士の交流ができるようになったように思います。新型コロナウイルスが収束したら行きたい都道府県や国をリサーチして観光名所や名産品をチェックするのが楽しみになっています。このまま収束していきコロナウイルスを気にすることなく旅行や帰省のできる日が訪れてほしいです。



白衣贈呈式

中村 大海, 森 洸太 (学1)

令和3年9月30日、薬学部多目的ホールにて白衣贈呈式が執り行われました。長薬同窓会のご厚意により白衣を贈呈いただき、一年生を代表して深く感謝申し上げます。

今年も昨年度に引き続き新型コロナウイルスの影響がありましたが、オンライン授業の頻度は少なくなりました。とはいえ、例年に比べると同級生と直接顔を合わせる機会が少ない状況でした。そのような中、白衣贈呈式が執

り行われたことで、久しぶりに薬学部1年生が一堂に会し、後期のスタートとして気持ちを新たにすることができました。今後も例年とは違った学生生活となることが予想されますが、気を引き締めて授業等に取り組んでいきたいと思えます。

頂いた白衣は来年度の基礎実習やその後の研究活動、病院実習、薬局実習等で使用させていただく予定です。

多くの長崎大学薬学部の先輩方に続く優秀な人材になれるよう、そして今挙げた活動を有意義に行うためにも、

今後の学生生活を精進していきたいと思います。



薬学祭

泉 龍昇 (学3)

2021年10月30日、31日に今年度の薬学祭が行われました。今年も昨年同様、新型コロナウイルスの影響により、1年生や薬学サークルによる出店の見合わせや、軽音サークルによるライブが中止となりました。

しかし今年もソフトボール、バレーボール、フットサル、バスケットボールの4種目のスポーツ大会を開催し、例年に負けないほどの盛り上がりを見せました。

長薬同窓会様からの援助でボールなどの消耗品に加え、新型コロナ感染防止対策としてのアルコール消毒液を購入させて頂きました。お陰様で学生一同、体調不良者を出さず、例年以上の白熱した試合が繰り広げられました。本当にありがとうございました。



ソフトボール



バレーボール



バスケットボール

ソフトボール	
優勝	薬化学
準優勝	医薬品情報学
三位	合成・機能性合同チーム
バレーボール	
優勝	薬剤学
準優勝	機能性分子化学
三位	薬品製造化学
フットサル	
優勝	坂本連合チーム
準優勝	1年生チーム
バスケットボール	
優勝	医薬品情報学
準優勝	医薬品合成化学



グビロが丘下の薬専防空壕跡地の慰霊碑周辺の清掃

小嶺 敬太 (平24)

令和3年8月1日(日)、グビロが丘下の薬専防空壕跡地の慰霊碑周辺の清掃を行いました。平成11年にグビロが丘下の薬専防空壕跡地(坂本キャンパス内)に慰霊碑が建立されて以降、毎年8月の第一日曜日に周辺清掃を実施しております。

例年であれば、薬学部野球部を中心とした学生とともに、同窓会員との交流も兼ねて清掃活動を行っております。しかし新型コロナウイルスのため、昨年同様、縮小して一部の本部役員のみで実施しました。猛暑の中、お集まりいただきありがとうございます。

当日は、ソーシャルディスタンスを確保しながら清掃を行いました。清掃後、原爆で犠牲になった先輩方に焼香を行いました。最後に、会長である山口先生を中心に役員間で意見交換を行い、作業を終了しました。

慰霊碑があるグビロが丘下の薬専防空壕跡地へは、いつでも行くことができます。熱帯医学研究所の横の小道を進み、突き当たりにある階段を登ると慰霊碑があります。お時間ございましたら、是非一度訪れてみてください。



長崎大学薬学部昭和町校舎跡記念碑清掃

岸川 直哉 (平10)

2021年8月24日(火)に長崎大学教育学部附属小学校敷地内の長崎大学薬学部昭和町校舎跡記念碑の清掃を行いました。

長崎市はこの時期天候が不安定であり、当日も朝から

大雨が降る等心配しておりましたが、清掃中は幸い雨には見舞われませんでした。

今回の記念碑の清掃は岸川(平10)と松尾(平15)で担当致しました。



旧小野島校舎跡記念碑清掃

山口 正広 (昭56)

2021年10月31日(日)に、長薬同窓会の年間行事の一つである旧小野島校舎跡記念碑周辺の清掃を行いました。

この記念碑は、自昭和22年至昭和26年卒業生の長薬同窓会小野島会により、1988年(昭和63年)6月に建立されたもので、記念碑の表面には「長崎医科大学附属薬学専門部小野島校舎跡」と彫り込まれています。

小野島校舎は、1947年(昭和22年)1月に佐賀市多布施町の仮校舎から移転し、1951年(昭和26年)4月に西浦上(昭和町)に移転するまでの約4年間使用されています。そして、小野島校舎時代には、新学制発令に伴う新制大学への昇格に関連して九州大学移管問題が起こった時代でもあり、長崎大学薬学部の歴史において一つの分

岐点となった時代でもあったようです。

今年の清掃は、昨年度に引き続き、長崎県央支部の有志の先生方にご参加いただき、実施しました。当日は、朝から晴れており、朝8時30分頃に現地に集合、周辺の草取りや枝木の剪定、落ち葉拾いの後、記念碑の拭き上げを行い、30分ほどで清掃作業は終了しました。作業終了後は、参加者全員で記念撮影を行い、しばらく懇談をした後、解散しました。

なお、今年の参加者は、昨年同様、西村昇支部長(昭50)、西村律子先生(昭51)、石居敏文先生(昭56)、山口綾子先生(昭60)、それに私の5人でした。来年も会員皆様のご参加をよろしく願います。



研究室だより

細胞制御学研究室

博士前期課程2年 八谷 早紀

当研究室は、武田弘資教授と谷村進准教授（博平9入）、そして新たに2021年1月より竹生田淳助教を迎え、3名のスタッフで率っています。2021年3月に、博士前期課程1名、薬学科2名が修了、卒業して、企業の研究開発や病院・薬局薬剤師として活躍しています。4月には、薬科学科の卒業生4名が博士前期課程に進学し、3年生（薬学科2名、薬科学科4名）が新しく配属され、博士前期課程6名、薬学科生5名、薬科学科生4名が所属しています。

研究室のテーマは、「ストレス応答を制御する細胞内シグナル伝達機構の研究」です。具体的には、ミトコンドリアのストレス受容・応答機構、炎症制御におけるミトコンドリアの機能、マクロファージ系細胞の炎症誘導性細胞死の機構の研究課題について、グループに分かれ、お互いに協力し合い、また刺激を受け合いながら、日々研究に打ち込んでいます。もうひとつのテーマは、「海洋微生物抽出物ライブラリーの構築と創薬への応用」です。ここで

は、長崎県の豊富な海洋資源に着目して、県内各地より収集した海洋微生物の抽出物を創薬スクリーニングに利用できるようにライブラリー化を進めています。また、ライブラリーの拡充を進めると同時に、活性成分産生微生物の大量培養、抽出物の大量調製、活性成分の精製を進めながら、学内外のたくさんの研究者の方々にライブラリーを提供し、アカデミア創薬の基盤整備と長崎大学発の創薬を目指しています。今年は新たにHPLCやエバポレーターなど数種類の大型機器を導入し、今まで以上に活性成分の単離・同定に力を注いでいます。

今年も、コロナ禍の影響で恒例の研究室旅行やバーベキューなどのイベントは残念ながら中止することになってしまいました。自由な研究活動にも制限がかかるなか、ラボメンバー間の研究連携や情報交換は「密」を心がけ、これまで以上にワクワクするような研究成果を挙げることができるように、一同頑張っています。



(海洋微生物サンプリングの様子)

創薬薬理学研究室

博士前期課程1年 吉井 雅起, 唐木 達哉

創薬薬理学研究室は、金子 雅幸 教授, 塚原 完 准教授, 岡元 拓海 助教のご指導のもと, 博士前期課程1年2名, 学部6年生2名, 4年生3名, そして新たに迎えた学部3年生6名を合わせた総勢16名で日々研究に邁進しております。昨年と比べて学生の人数が2倍近くに増え, とても活気のある研究室となりました。

研究テーマとしては金子教授率いるチームが「ユビキチンリガーゼ」に着目した研究を行っており, 未だ解明されていないユビキチンリガーゼを同定し, その生理機能と疾患との関係性を明らかにする中で創薬に挑戦しています。塚原准教授率いるチームは「機能性リン脂質」に関連した研究を行っており, 変形性関節症や認知症に対する創薬を目指しています。それぞれのグループ内外に縛られず研究に関する意見交換を行いながら, 日々実験に打ち込んでいます。私たちM1の学生2名が最上級生である現体制に対して責任感を覚えながらも, 研究室員一団となって協力し合い, 互いを高めあえるような雰囲気作りを目指していきます。

昨年の研究室対抗スポーツ大会ではソフトボール部門で優勝しており, 今年も2連覇に向けて, 研究活動の合間を縫って日々練習に励んでいます。運動不足になりがちな研究生活においてはこうした活動が良い息抜きとなっています。

また, 2020年春から長く生活に影響を与えている新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) も全国的なワクチ

ン接種の効果があってか少しずつ落ち着きを見せており, 研究活動に取り組みやすい環境が戻ってきたことを感じています。セミナーやミーティングといった3密が懸念される活動にはまだまだ注意が必要ですが, 当研究室でもZoom等のオンラインツールを導入することで感染対策に努めています。新たに所属した3年生の歓迎会も未だ実施できていない状況であり, 気兼ねなくイベントが開催できるよう一刻も早い終息を望んでいます。

大学内だけではなく社会においても活動スタイルの変化が起きており, 我々には柔軟な対応が求められます。社会人に必要な自立性や計画性といったスキルを身につけられる良い機会だと捉えることで, 自己成長を意識した取り組みに励んでいきたいと思っています。



薬化学研究室

博士前期課程1年 嘉数 沙奈

薬化学研究室は現在、田中正一教授、上田篤志准教授のご指導の下、博士後期課程2名、博士前期課程5名、学部6年生2名、5年生3名、4年生6名、10月から加わった3年生3名の総勢23名で研究に邁進しています。

3月にはこれまで後輩の指導をしてくださった中島さん、謝さんが、9月末には研究室を明るい雰囲気にしてくださった久壽米木さんが卒業・修了を迎えました。また、博士前期2年の山端さんの京都への研究委託、薬学科やモデルコースの先輩方の実務実習などもあり、昨年までと比べると研究室で会えるメンバーは少なくなりました。しかし、その分仲が深まり、毎日お互いに励ましあいながら研究をしています。

私は4月から同期の井吉君、西岡君とともに大学院に入学しました。今年の学生実習はCOVID-19の影響で、一部を除いてオンラインでの実施となったため、実験操作の動画をLACSで公開する形となりました。実験操作をする井吉君の首元にカメラを付けて撮影することで、没入感のある動画を撮影することができました。また、西岡君の気合の入ったナレーション、上田先生の高い編集技術もあり、動画を視聴した3年生からの評判がとてもよかったです。6月の化学関連支部九州合同大会では、ポスター作りに苦戦しましたが、無事に初めての学会発表を行い、多くのことを学びました。その後、学会発表の機会を沢山いただき、動画での発表、口頭発表と様々な形で発表を行いました。いずれの学会もオンライン開催でした。来年は会場に足を運び、他の大学院生

の方々と交流できることを願っています。7月には薬学部のオープンキャンパスが開催され、県内外から薬学部志望の高校生が足を運んでくれました。当研究室では、アミノ酸と糖を混ぜ加熱することで香りを発する「リアクションフレーバー」の実験を行いました。使用するアミノ酸によって、チョコレートの香り、お花の香り、せんべいの香りなど違う香りになり、高校生だけでなく私たちも実験を楽しむことができました。10月には、毎年学祭の日にある薬学スポーツ大会の開催が決まったため、研究の合間を縫って、和気あいあいとソフトボールやバレーボールの練習をしています。写真は練習後に撮影しました。

今年も昨年と同様、COVID-19でイレギュラーなことが多く、毎日がハプニングの連続ですが、10月から新たなメンバーを迎え入れ、研究室一同元気で明るく過ごしております。

長崎県は全国的にCOVID-19の感染者が少ない地域ですが、長崎大学では、会食の人数の制限、カラオケボックス・ライブハウスの利用の全面禁止といった行動制限が続いており、以前の生活に戻るにはまだ時間がかかりそうです。研究室のメンバーは、ほとんどが2回目のワクチンの接種を終えているため、昨年より多くの活動ができることを願っています。

末筆ではございますが、長薬同窓会のみなさまのご健康と益々のご活躍を心より祈念いたします。



薬品製造化学研究室

博士前期課程2年 佐藤 瑞紀

薬品製造化学研究室では、特異な生物活性や構造を有する天然物の合成を研究の柱としており、近年では、創薬を目指した合成品の活性評価を目的に、本学部の他研究室や他学部との共同研究も行っています。

今年度の薬品製造化学研究室は石原教授を含め教員3名、大学院生11名、学部生12名の総勢26名の大所帯となっています。

D2の川崎さんは、最高学年の学生として自身の研究テーマに対して精力的に取り組んでおり、またリーダーとして研究室をまとめて頂いています。D1の堤さんは、今年度から新たに始まった研究テーマの実験と並行して、モデルコースにて薬剤師免許を取得するために、OSCEやCBTの勉強にも勤しんでおられます。学部6年生の菊岡さんは、薬剤師国家試験に向けて、非常に忙しい日々を送っています。私も含めて、久保田、岸本、坂田の4人は、M2として博士前期課程も残りわずかとなり、修論発表会も控えているため、ターゲット分子の全合成達成に向けてより一層努力しています。M1の大橋君、岡野君、片柳君、古賀さん、二宮君は博士前期課程に進学し、各々のテーマに対して、今まで以上に気を引き締めて精力的に取り組んでいます。学部4年生では、大久保君、小出水さん、辻本君、森さん、山崎君が卒業研究に精を出しており、薬学科の錦織さんはOSCEやCBTに向けて忙しい日々を送っています。また今年10月から新しく5名の学部3年生、岩永君、菊池さん、倉田君、松田君、吉本さんが配属されました。慣れない研究室生活に戸惑うことも多々あるようですが、先輩か

ら知識や技術を学ぼうというフレッシュで熱心な姿に、研究室の雰囲気も明るくなったように感じます。

土曜日セミナーや学部生・大学院生のゼミもそれぞれ継続しており、一昨年から学部3年生を対象としたゼミも始まり、有機化学の実力向上のために皆で努力しています。

研究室行事としては、新3年生の歓迎会である「芋煮会」を始め、研究室旅行などを何とかできないかと模索しておりましたが、昨今のコロナ禍により中止を余儀なくされました。研究室生活における良い気分転換の機会だったため、非常に残念な気持ちではありますが、このような状況の中でも、皆元気に実験を行っています。

本学では例年、御高名な先生方を講師の先生にお招きし、普段中々聞くことのできない非常に深いお話を拝聴しておりますが、今年度は昨年に引き続き、ビデオ会議アプリなどを活用して貴重な機会をいただいております。また各学会に関してもオンラインでの開催が続いております。当研究室では今年度も天然有機化合物討論会で1件、複素環化学討論会で1件の口頭発表と、万有福岡シンポジウム、反応と合成の進歩シンポジウムでそれぞれ1件のポスター発表を行いました。万有福岡シンポジウムでは、堤さんがポスター優秀賞を受賞し、有機合成化学協会が主催する若手研究者のためのセミナーにて口頭発表をする機会を頂いておりました。多くの学会に参加する機会がありましたが、やはり会場での臨場感といった学会の醍醐味を感じられないことは残念です。一日も早く元の生活に戻れることを願いつつ、新しい日々を送っています。



(※ 令和3年秋撮影)

医薬品合成化学研究室

博士前期課程1年 北村 美紅

医薬品合成化学研究室では、教員3名、博士後期2年生1名、博士後期1年生3名、博士前期2年生3名、博士前期1年生4名、学部4年生4名、3年生3名の総勢21名で日々研究に取り組んでいます。グリーンケミストリーを支える電解反応と触媒反応の開拓、水酸基活性化に基づく生物機能分子構築、複素環化合物の高効率合成法の開発、含フッ素有機化合物の新規合成法を研究テーマとしています。

今年度も前年度と同様に新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響を受け、学生生活の制限を受けながらの研究活動となりました。3密を避けるため、オンラインでのセミナーの実施などにも手探り状態ではありましたが取り組むこととなり、様々な場面で生活の変容を感じるようになりました。尾野村教授は研究室全体を、栗山准教授は第2研究室を中心に、山本助教は第1研究室を中心に、課題解決に向けてディスカッションを活発に行っています。

学生は、各々、研究テーマに対して強い思いを持って、学生同士の情報共有や最新の文献などから知識を養い、研究へと還元できるよう、日々最大限の努力をしています。一方で、研究外のところでは新型コロナウイルス感染防止のための制限に則りながらプライベートなどでも交流を行い、楽しい学生生活を過ごしております。今年度の10月に配属されたB3は自身の履修している科目との兼ね合いを見ながら実験をすることとなり、当初は戸惑いや不慣れな部分も多いようではありましたが、上級生の指導やセミナーを介して実験技術や有機化学の知識

を学んでいます。先輩学生は、自身の実験とともに、TAとしての仕事などに追われて慌ただしい毎日を過ごしています。D2、D1は研究室をまとめ、引っ張っていくリーダーとしての役割を存分に果たし、M2は修士論文完成を目指し奮闘しています。M1は今後予定されている学会での発表や自身の就職活動に向けて、B4は卒業論文を完成すべく取り組んでいます。

昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため、多くの学会が中止または延期となりましたが、今年度は多くがオンライン開催となりました。オンラインでの発表のため準備など多くの苦労はあったものの、M1以上の院生がそれぞれ日頃の成果を発表することができ、今後の研究の参考となる実りの多い経験を得ることができました。

今年度も、当研究室は日頃より活発な学生が多く、イベントにも全力で取り組んでおりましたが、今年度も前年度同様キス釣りや研究室旅行といった様々なイベントの中止が続いておりました。そのような状況の中、10月末に研究室対抗スポーツ大会が開催された際には、培ってきたチームワークを遺憾なく発揮することができました。

この様に当研究室はオンオフの切り替えを大切に、研究もイベントも全力で取り組み、充実した生活を送っています。今後もより良い研究成果を求め、論文や学会で発表できるよう努力して参ります。

末筆ではございますが、長薬同窓会の皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。



ゲノム創薬学研究室

博士前期課程2年 光成 晃輝

当研究室に配属されて早3年が経ち、学生として過ごす時間が残り半年という事実が夢のように感じられます。思い返すと配属当時から現在に至るまで、本当に仲間恵まれていたと思います。学生想いの先生方、熱い先輩、面白い同期、真面目な後輩…。私の周りには常に個性的なメンバーが集い、日々の活動を輝かしいものにしてくれました。そんな研究室に恩返しができるように、残された僅かな時間を大切にしようと決意を新たにしているところです。

2021年3月には文武にわたり活躍した5名（博士前期課程: 太田遼佑, 塩湯涼; 薬学科: 高宮優真, 東泰之; 薬科学科: 石井豪, 敬称略）が当研究室から巣立ち、新しいステージへと活躍の場を広げていきました。現在は博士後期課程の池水文香と永田健太郎が中心となって、研究室の活動を取りまとめています。また、2020年12月には岩田修永教授が当研究室に赴任して10周年を迎えました。時に厳しい指導に鼓舞され、時に丁寧な指導に感化された方も多いのではないのでしょうか。私も岩田教授から多くのことを教わり、影響を受けた一人です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

昨今の新型コロナウイルスの流行に伴い社会の生活スタイルが変化の中で、当研究室もその変化に柔軟に対応しています。三密回避のために毎日の朝礼を個別対応にしたり、研究に関するディスカッションをオンラインで行ったりして感染対策を講じています。そして今日も

城谷准教授が三密に目を光らせており、対面で会話がしたい学生との攻防がすっかり風物詩になっています。加えて、実験計画や結果などの資料作成を在宅で行う事が認められるようになりました。これに伴い、「主体的に計画・立案する力」、「自身で情報を広く収集し、深く考える力」が一層求められるようになり、各自が試行錯誤しながら自身の研究と向き合う日々が続いています。また、個の力だけでなく、チームとして研究力を向上させるため、実験の中で自分が失敗したことや注意していることをオンライン会議で共有する取り組みがスタートしました。これにより仲間の教訓をチームの糧とし、研究室全体で効率的に実験を行うように努めています。

当研究室では研究成果の発表にも精力的に取り組んでいます。2021年6月に開催された日本生化学会九州支部例会において、城谷圭朗准教授と博士後期課程1年の池水文香と博士前期課程1年の岩元史織が日々の研究成果を発表しました。同年7月に開催された令和3年度大学院生合宿研修では、博士前期課程1年の奥田泰生と米須拓也が同学年の学生を相手に研究内容を紹介しました。いずれもオンラインでの発表であり、慣れない形式に戸惑いながらも、本番ではその成果を十分に発表することができました。また、他の研究室の研究内容を知り、練度の高い発表に触れたことで大きな刺激を受けたようです。研究室内においても、中間報告会で各自の研究成果や実験の進捗状況を報告し、互いに意見を出し合って建



設的なディスカッションを行っています。これらの機会を通じて得た学びと発見を還元して、次回の報告に繋げられるようにますます研鑽に努めていきます。

このように、現在当研究室は大きな転換期を迎えています。しかし、受け継がれてきた「チームで創意工夫しながら戦略的に成し遂げる」精神は今も健在です。良き伝統は受け継ぎつつ、新しい変化を取り入れながらこの厳しい情勢を乗り切っていきます。そんな中で、10月から3名の3年生（薬学科：志築岳；薬科学科：今村陸、宮

内完李）が新たなメンバーとして加わりました。3年生もまた例に漏れず個性的で、一層活気が増えています。毎年恒例のバーベキューや研究室旅行が軒並み中止となり、交流の機会が減少していますが、研究室に早く馴染めるように皆でサポートしていきたいと考えています。今後も研究室一同、力を合わせて励んで参りますので、新しくなったゲノム創薬学研究室をよろしくお願ひします。

天然物化学研究室

博士後期課程1年 山下 貴子

現在、天然物化学研究室は、田中 隆教授、齋藤義紀准教授、松尾洋介助教（平15）のご指導のもと、博士後期3年（1名）・博士後期1年（2名）・博士前期2年（1名）・博士前期1年（2名）・学部6年（3名）・学部5年（3名）・学部4年（6名）、そして今年9月に学部3年（5名）を新たに迎え、計23名で日々、研究に邁進しております。

今年3月、これまで共に切磋琢磨して研究に取り組んできた学生が卒業・修了を迎えました。新型コロナウイルス感染対策のため、多くの人の努力と様々な形の協力のもとで、無事に卒業式が挙行され、研究室では小規模ながら送別会を執り行うことができました。一方、例年5月に開催していた当研究室と薬用植物学研究室合同の植物観察会は、残念ながら昨年に引き続き中止となりま

した。基礎実習については、今年も実習室に入れる人数に制限が有りましたが、昨年の経験も生かしつつ、基礎実習をオンラインと対面のハイブリッドの形で実施しました。実習補助をした私たちにとっては、後輩たちに知識や技術を伝える難しさや楽しさを感じると共に、これまで学んできた知識や技術を再確認する良い機会になりました。一時、登校が制限された時もありましたが、昨年までは、非日常と感じていた感染対策も徐々に日常へと変化し、研究室セミナーも対面とオンラインを併用しながら行っています。9月には、光栄なことに本研究室に興味を持ってくれた学部3年生が研究室に配属され、フレッシュな風を運んで来てくれています。

研究室のホームページに掲載しておりますように、例年当研究室は学会に積極的に参加しております。昨年は



中止や誌上開催の学会もありましたが、今年はオンラインでの開催も増え、日本薬学会第141年会（3月）、XXX International Conference on Polyphenols (ICP2020)（7月）、日本生薬学会第67回年会（9月）、第65回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会（10月）等で多くの学生が研究結果を報告しております。3月には令和2年度博士前期課程研究発表会が開催されました。11月には薬学科6年生の卒業論文発表会が開催されます。論文作成や学会発表では先生方からの厳しい指導のもと、わかりやすく伝える事の難しさを感じ、試行錯誤しながら各々が懸命に取り組んでいます。例年当たり前だった学会出張や様々な研究室行事がコロナ禍で出来ない状況が続きますが、これからも状況変化に適応しながら研究と自己研鑽に努力していきます。

（敬称略順不同）2020年度3月修了・卒業生：川副 里菜（博士前期）・末廣 彩（博士前期）・柴田 翔生（学士）・高橋 龍磨（学士）、2021年度在学生：胡 一鳴（博士後期3年）・山下 貴子（博士後期1年）・刘 章彬（博士後期1年）・山本 崇太郎（博士前期2年）・宮上 桐豪（学部6年）・河崎 友昭（学部6年）・坂本 健太（学部6年）・高吉 樹里（博士前期1年）・橋口 啓吾（博士前期1年）・福田 智志（学部5年）・藻利 翔（学部5年）・安松 美保（学部5年）・大久保 千帆（学部4年）・佐藤 早紀（学部4年）・壹岐 美里（学部4年）・角田 航（学部4年）・谷口 由依（学部4年）・Byamba Adiyasuren（学部4年）・小澤 太志（学部3年）・大塚 涼央（学部3年）・永瀬 希憧（学部3年）・的野 英介（学部3年）・安河内 由宇人（学部3年）

機能性分子化学研究室

学部4年 王 芳帆

機能性分子化学研究室は、山吉麻子教授、山本剛史准教授、三瓶悠助教（本年度4月着任）のご指導の下、博士後期課程3年（1名）、博士前期課程2年（3名）、博士前期課程1年（4名）、学部6年（1名）、学部5年（1名）、学部4年（6名）の学生が、日々研究に励んでおります。

私たち4年生が、昨年10月に当研究室に配属されてちょうど1年が経過しました。この1年間を振り返り、ご報告させていただきます。

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、研究室での多くのイベントが中止となってしまいました。しかし幸いにも、私たちが配属された昨年10月の時期は、第2波とされる新型コロナウイルス感染拡大が収まりつつある時期でしたので、研究室内で三密を避けながら、歓迎会を開催していただきました。緊張や不安が残る私たちを温かく迎えてくださり、研究室の先生方や先輩方と打ち解けることができました。11月には、基礎実習が行われ、山本准教授のご指導の下、私た



ち4年生も実習のアシスタントをさせていただきました。基礎実習の後は、三密を避けながらラボ内で打ち上げを行いました。前日から仕込んだおでんはもちろん、長崎の名酒をおでんのだしで割った出汁割りも非常に美味しかったです。先生方や先輩方との交流をさらに深める良い機会となりました。以降は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、研究室内のイベントは残念ながら中止となっております。しかし、研究分野では山吉教授をはじめ、多くの方が素晴らしい研究成果を挙げています。

11月には、山吉教授が領域代表者として提案した研究領域「マテリアル・シンバイオシスのための生命物理化学」が、令和2年度科研費学術変革領域研究(A)に採択されました。本種目と前身の新学術領域研究を通して、本学教員が領域代表者として採択されたのは今回が初めてで、長崎大学のホームページにも掲載されました。3月には、薬科学科卒業研究発表会において、江島穂乃香さん(現在は博士前期課程1年)が優秀発表賞を受賞されました。本年度におきましても、日本薬学会第141年会では寺田知邑さん(博士前期課程2年)、日本薬剤学会第36年会においては、大山将大さん(博士前期課程2年)が優秀発表賞を受賞されました。先生方や先輩方のご活躍に、機能性分子化学研究室の一員として、誇

らしく思いながらも、私たちももっと頑張ろう、とエネルギーをもらえます。本当におめでとうございます!

7月には、高校生に向けてのオープンキャンパスが2年ぶりに開催されました。薬学部では、全体説明の後、希望する2つの研究室での見学と模擬実験を行うものでしたが、模擬実験にて研究内容を噛み砕いてわかりやすく説明する難しさを痛感しました。10月には新たに3年生が当研究室に仮配属され、後輩だった私も先輩の立場となります。私自身、第一印象があまりいい方ではなく、親しみやすい先輩ではないかもしれませんが、まずは、仲良くなるのが最初の目標です。お互い刺激し合うことのできる研究生活を一緒に送っていきたいと思います。

この1年は、多くのイベントが中止せざるを得ない状況となってしまいました。写真は3月に行われた卒業式の際の集合写真です。来年の長薬同総会報の写真は、研究室全員で楽しんだイベントの集合写真を掲載できるといいですね。1日でも早く新型コロナウイルス感染症が収束し、楽しい時間を過ごせる日々を心待ちにしております。

末筆ではございますが、長薬同窓会の皆様のご健康と、益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

衛生化学研究室

博士後期課程2年 山口 涼太

衛生化学研究室は現在、鳥羽教授、吉田助教(平19)、大学院生9名、学部生6名の計15名が所属しています。当研究室の最近の様子についてご報告したいと思います。

昨年2020年11月に鳥羽 陽教授が金沢大学より赴任されました。鳥羽教授は東京大学 薬学系研究科 分子薬学専攻を修了された後に、金沢大学 薬学部 助手、ワシントン大学 環境労働衛生化学部 博士研究員、金沢大学 大学院自然科学研究科 講師、同大学 同研究科 准教授、同大学 医薬保健研究域薬学系 准教授を経て、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科(薬学系)衛生化学分野 教授として当研究室に赴任されました。鳥羽教授は薬学衛生分野だけでなく、分析化学分野や環境分野など多岐にわたって精通されています。

2021年3月25日の学位授与式では薬科学科4年生5名、薬学科6年生2名、博士前期課程2年生1名の計8名が長崎大学を卒業・修了し、就職または大学院に進学をしました。卒業・修了した後輩たちは、先輩・後輩分け隔てなく気さくに話をするのができ、くだらない冗談を言い合えるような関係性だったため、研究室内を盛り上げてもらった印象があります。

また、2021年5月をもって2009年10月から在籍されて

いた淵上 剛志准教授が当研究室を離れ、同年6月 金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 准教授として同大学に赴任されました。個人的には先生には5年ほど温かい指導をして頂き、さらに、特に飲み会の場では他愛ない話で盛り上がり、非常に充実した時間を過ごさせていただきました。今後は金沢からメールやZoomを用いて研究指導をしていただくこととなりますが、新天地でのご活躍をお祈り致します。

研究室内でそのような変化を迎えていた中、昨年度に引き続き新型コロナウイルスの影響が我々の生活に影響を与えております。本年度は特に第4波、第5波と感染者数が爆発的に増加するだけではなく、デルタ株などの変異株も流行することによって重症者が増加しており、医療のひっ迫が連日報道されています。我々も感染対策として全員マスクをする、研究室は換気を徹底する、手指の消毒をする、手洗いうがいをこまめに行うなどを行いながら研究活動にいそしんでおります。

例年では、当研究室では研究室のメンバーと交流するために、研究だけでなく様々なイベントを行っています。昨年度からコロナ禍ということで、節目に行く飲み会だけではなく、5月に恒例となっている子々川でのキ

ス釣りや釣りの後のBBQ, 毎年夏に開催される研究室旅行, ボウリング大会などのイベントを中止せざるを得ない形となってしまいました。これらのイベントを行えないことは非常に残念ですが, 以前の生活が取り戻せるように, これらイベントができるようになればと思います。

そんな中, 2021年10月には3年生3人が当研究室に仮配属されました。新しいメンバーとともに皆で協力し合って研究を頑張っていきたいと思います。

末筆ではございますが, 長薬同窓会の皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。



薬品分析化学研究室

博士課程2年 福田 貴之

現在, 当研究室は黒田直敬教授, 岸川直哉准教授(平10), Mahmoud Hamed Elmaghrabey 助教(博平25入)のご指導の下, 博士後期課程2年(2名), 博士後期課程1年(1名), 博士前期課程2年(4名), 博士前期課程1年(1名), 学部5年生(2名), 学部4年生(6名), そして10月に学部3年生(5名)が新たに加わり, 計21名の学生が日々研究に勤めています。

当研究室の最近の様子について報告致します。2021年3月には3名の博士前期課程学生が修了しました。修了生とは気心の知れた間柄で実験やイベント, 飲み会など研究室内外の様々な場面で苦楽をともにしました。今年は, 昨年中止となった卒業式が催され, 皆の旅立ちを祝福できたことはとても悦ばしいことでした。

新学期からの授業は, 新型コロナウイルスの拡大予防により条件付きではありますが, 対面授業も再開されました。対面とオンラインとのハイブリットで開講される講義もあり, まだ不慣れで戸惑うこともしばしばあります。感染拡大時はセミナーもオンラインで行うこともあ

りました。研究室は個々が3密の防止に努めることでコロナ禍前同様の活気を取り戻しつつあります。しかしながら, 恒例行事であるキス釣り, ボーリング大会, 研究室旅行, ビアガーデンなどの楽しいイベントは開催できる見通しは立っておらず, 早くコロナ禍が落ち着いてほしいと願う日々が続いています。

しかし, 今年は昨年とは違い, 嬉しい出来事もありました。7月になると, ワクチンの集団接種が始まりました。待ちに待ったワクチンだったので学内で接種できて大変助かりました。ワクチンの副反応により, 予防接種の翌日欠席してしまう学生もいましたが, これもコロナ禍の記憶に残る象徴的な出来事の一つだと思いました。また, この時期になると東京オリンピックが開催され, サッカーや卓球, バスケットボール, 柔道など日本チームが活躍すると研究室のメンバーと大いに盛り上がり, コロナ禍で娯楽の少ない状況の中, 大きな刺激となり, 「僕たちも研究を頑張ろう!!」という気持ちになりました。

9月になると、2名の博士前期課程の学生と1名の学部生が修了・卒業しました。そのうち二人は博士後期課程と博士前期課程に進学し、実験に打ち込む日々がすでに始まっています。もう一人の修了生は春からの新生活に備え、長崎を後にされました。優しい弟のような存在だったので、とても別れ惜しい思いでした。10月になると2年生の学生実習が始まりました。当研究室が担当する薬品分析化学実習は2年生にとって初めての実習なので、実験の基礎を一から指導することは非常に責任感を伴います。同時に、フレッシュな2年生の好奇心溢れる眼差しや、新しい知識に触れたときの爽やかな表情は実験に初めて触れた時のことを思い出させてくれます。あ

の時の先輩方のような指導を後輩たちにも出来ていれば幸いです。そして、分析化学に興味を持ってくれた2年生が一人でも多くいてくれることを願います。

新型コロナウイルス感染症で不自由な日々が続いておりますが、大学は徐々に以前同様の活気を取り戻し始めました。研究室内の活動も充実しています。さらに10月に入り、コロナ感染者も激減し、全国的に規制が緩和されつつあります。これを機にコロナ禍で減っている卒業生の皆様と自由にお会いし、様々なお話ができる機会が増えることを願っています。皆様のご健康と益々のご活躍を祈念して、終わりの言葉とさせていただきます。



薬物治療学研究室

学部5年 岩永理沙子

まず、本年3月にいつも優しく丁寧にご指導下さいました稲嶺達夫准教授(平18)がご退職されました。稲嶺先生のご退職で不安なことも多かったのですが、教えて頂いた沢山の知識や考え方、実験手技は今も引き継がれています。また、昨年度に6名の学部生が卒業され、本年度に伊東さん(博平29入)が博士課程を修了されました。そして、本年9月より長崎大学病院第二内科から平山達朗先生が准教授として新たに着任されました。さら

に、10月から6名の学部3年生を迎え、とても賑やかな雰囲気です。現在は、塚元和弘教授、平山達朗准教授のご指導のもと、21名の学部生が研究に取り組んでいます。

当研究室では、個別化医療・治療に向けて、臨床の現場で問題となる個体差に関する幅広い研究を展開しており、遺伝子多型と疾患との相関解析班は、「クローン病におけるインフリキシマブの治療効果」や「萎縮性胃炎の発症および進展」をテーマに研究しています。疾患の発

症・進展における遺伝子多型の機能解析班は、細胞株を用いて相関解析で同定した遺伝子多型がその遺伝子の発現や機能にどのように影響しているかを明らかにしています。腸内細菌の働きにも注目し、マウスを用いて代謝性疾患の個体差に関わる腸内細菌とその働きに関する研究も行っています。さらに、平山先生の赴任に伴い、本年度から新しく「カンジダ属の病原因子解析とゲノム編集」の研究がスタートしました。これまでなかった真菌に着目した実験で、期待に胸を膨らませながら日々新しいことにチャレンジしています。当研究室では、週に1回、英語科学論文の紹介や実験の進捗状況報告のためのセミナーがあり、先生方からのご意見や、学生同士で意見を交換したりすることでお互いの知見を深めています。また、オンラインでの開催ではありますが、学会に参加して研究成果の発表も行っています。

昨年度から研究室旅行や歓送迎会などのイベントが全く行われていません。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響でやむなく中止となりました。他に薬学部全体

で行われるボウリング大会や歓送迎会も中止となってしまうなど、今年度の研究室のメンバーで過ごす時間が少なくなっていることがとても残念です。最近ようやく条件付きで飲み会を行うことができるようになり、3年生の歓送迎会を2回に分けて行いました。実習中のために参加できない学生もいましたが、先生方を含む研究室のメンバーが集まり、和気あいあいとした雰囲気での交流を深めることができました。6年生は卒業論文とその発表会そして国試対策と多忙な状況ではありますが、残り少ない時間を一緒に楽しく過ごしていきたいと思います。

新型コロナウイルス感染症は落ち着いてきており、長崎市も大学も徐々に活気を取り戻しつつあります。一日も早く元の生活に戻れることを願い、感染防止対策を継続しながら、これからも研究室一同協力し合って勉学と研究に励んでいきたいと思っています。最後になりましたが、長薬同窓会会員の皆様のご健康とますますのご活躍をお祈り申し上げ、近況報告とさせていただきます。



医薬品情報学研究室

博士課程1年 増田 智成

医薬品情報学(旧医療情報解析学)分野は、川上茂教授(平7)・向井英史准教授のご指導の下、6名の博士課程、2名の博士前期課程、20名の学部生が在籍しております。博士課程のうち1名は、日本学術振興会・特別研究員(DC1)に採用されております。今年の春には、1

名の博士課程学生、2名の博士前期課程学生、4名の学部生が卒業・修了され、アカデミア・製薬企業・病院薬剤師・行政と様々な方面で薬学を支える人材が新天地へと飛び立られました。そして今年の10月には、6名の3年生が新たに加わりました。

本研究室では、Drug Delivery System (DDS) を進展させる革新的な基盤技術の開発に向けて、遺伝子・核酸医薬やワクチン製剤、細胞製剤など多様かつ複雑な次世代モダリティへの理解を深め制御することで疾患治療に貢献する「創薬研究」や、抗菌薬などの医薬品使用時における問題を収集・評価・解析する「育薬研究」に取り組んでいます。具体的には、1) 標的指向型の核酸封入脂質ナノ粒子製造体系の構築、2) 脳を標的とした核酸医薬の薬物送達システムの開発、3) mRNA送達を基盤としたT細胞誘導型ワクチンの開発、4) マイクロ流体法を利用した機能化細胞外微粒子製剤の開発、5) 難治性がん治療を目的としたデザイナー細菌の開発、6) PETによるコンパニオン/プレジジョン診断薬の開発、7) ジェネリック医薬品の注射剤の配合変化に関する研究をおこなっております。いずれの研究も得られた成果を迅速に臨床へと帰結させることを念頭に置き、次世代モダリティの医薬品展開の一助を担えるよう日々研究に励んでおります。また、企業や大学病院、他大学の先生との共同研究も積極的に行っており、学生も実験に参加する機会をいただくこともあるので、幅広い研究に携われ、多くの実験スキルを習得することができます。

研究を円滑に行うために、メンター制度を導入しています。学部生ひとりに対して実験計画・実験手技などの指導を行う大学院生を割り当て、頻繁にディスカッションを行っております。学生の距離が近く密接な情報共有が可能で、気軽に様々な事を相談できる環境づくりを心がけております。また、近年のコロナ禍を受けて、Zoom

やWebexを用いたオンライン形式で毎週、先生方から実験データや今後の実験に関して懇切丁寧に手厚いご指導を頂いております。このような環境の中で、学部生・大学院生とも、頑張って実験に取り組むことができ、その研究成果を発表する場として学会発表を行う機会をたくさん頂いております。2020年度も、日本薬学会、日本薬剤学会、日本DDS学会、日本薬物動態学会、日本核酸医薬学会、日本バイオマテリアル学会と様々な学会において発表を行いました。2020年には、4件の学会発表賞を受賞することができました。また、2020年3月に小川さんは博士修了時における研究業績が評価され、山田さんは、学部卒業時の成績が評価されて学長賞を受賞しました。

研究室での論文紹介(セミナー)は、研究レベルの向上を旨とし、自分自身の研究を深化させるための周辺論文を調査・体系化してレビュースタイルで発表したり、学年や課程に応じた様々な形式をとっております。本番では先生や先輩から、多角的な質問や「ダメ出し」をたくさんされますが、その中で学ぶことは非常に多く、i) 類似研究との比較の中での自分の研究の位置づけ・独創性、ii) データの正確な解釈、iii) 論理的なプレゼン能力など、多くの事を一回のセミナーで学ぶことができます。

こうした研究活動の一方、研究室イベントも盛んに取り組んでいます。例年は10月の新配属生歓迎会、学園祭でのスポーツ大会、薬剤学分野との合同忘年会と数多くイベントを開催しておりました。近年のコロナ禍においても、研究室員同士の親睦を深めるためにオンラインを活用して、皆に対する理解を深めるための他己紹介を



テーマとした3年生配属歓迎会や卒業生にまつわるクイズを交えた卒業生祝賀会など精力的に開催しております。昨年の学園祭のバスケットボール大会では、日々の研究室生活で培ったチームワークを発揮し、見事優勝に輝きました。

このように、医薬品情報学分野では、皆仲良く、何事にも熱心に取り組み、充実した研究生生活を送っております。

これもひとえに、先生方、卒業生の先輩方が築き上げてきてくださった環境のおかげでございます。OB・OGの皆様方、お時間がございましたら是非とも研究室にお立ち寄りください。最後になりましたが、長薬同窓会の皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

薬剤学研究室

博士前期課程1年 満留 菜央

本年度の薬剤学研究室は、西田教授、麓准教授、宮元助教（平20）のもと、4月からOBの赤城さん（平31・長崎大学病院薬剤部）が加わり博士3名、修士3名、6年生5名、5年生4名、4年生6名、10月からは3年生6名が加わり、計30名で構成されています。3月には、にぎやかで後輩思いの素晴らしい先輩方が5名卒業され、非常に寂しい思いをしました。10月に加入した3年生もまたエネルギーで研究室を盛り上げてくれています。

当研究室は生物薬剤学を中心として、物理薬剤学および臨床薬剤学を強く意識した研究を展開しており、体内の特定臓器や病巣などの標的部位に、医薬品を選択的かつ持続的に送達する研究を行っています。そのためには、医薬品の体内における挙動を把握する必要があり、様々な角度から解析しています。研究班は大きく3つに分かれており、腹腔内の臓器表面からの薬物吸収を利用した薬物ターゲティングを研究する「表面投与班」、遺伝子治療実現に向けた遺伝子デリバリーを研究する「遺伝子班」、病態時および各種治療時における薬物療法の個別化を研究する「動態班」があります。本年度からは、

西田教授が薬学部長にご就任され、お忙しい日々を過ごしておられますが、学生に丁寧なご指導やご面談をされています。5月には、西田教授薬学部長就任記念オンライン同門会2021が開催され、約50名のOB・OGおよび現役学生が出席しました。西田教授と川上教授（平7）のご講演の後にグループ懇談が行われ、大盛況となりました。

本年度は西田教授のEditorialがPharmaceutics誌に受理され、麓准教授の組織透明化試薬開発に関する研究成果と遺伝子医薬品の体内動態に関する総論がPharmaceutics誌に受理されました。さらに、卒業した徳留さん（令3）が学部長賞を受賞し、下村脩博士記念成績優秀者賞を徳留さん、溝内さん（令3）、三輪さん（令3）、満留（現在博士前期課程1年）が受賞しました。3月には、満留が薬科学科優秀発表賞を受賞しました。4月には、5年進級時成績優秀者賞を作田さんが受賞しました。また、同月に博士前期課程2年の加藤さんが日本薬学会第141年会学生優秀発表賞（ポスター発表の部）を受賞しました。5月には、麓准教授が日本薬剤学会第36年会で旭化成創剤開発技術賞を受賞し、坂口さん（学



6) が日本薬剤学会永井財団学部学生七つ星薬師奨励賞を受賞しました。

本年度は昨年と同様にコロナ禍のため朝ミーティングはオンラインで実施しており、研究室員は毎週向こう1週間の研究計画を立て、3密回避に十分に留意しながら、日々積極的に研究に励んでおります。また、文献紹介・研究報告・英語セミナーを行う毎週火曜日の全体セミナーは、状況に応じてオンラインまたは対面で実施しており、学生による質問が飛び交っています。また、全体セミナーとは別に班セミナーもオンラインを巧みに活用して実施しており、少人数のより濃密なディスカッションの中で、学生は教員の研究姿勢、豊富な知識量に触れ、研究とは何たるかを学んでいます。

研究・学習面以外では、これまでは研究室旅行など多くのイベントがありました。令和2年11月には、研究班ごとの3年生歓迎会を3密回避に留意しながら唯一対面で実施し食事を楽しみました。その他のイベントはコロ

ナ禍のため中止となりましたが、昨年と同様に飲み会をオンラインで行い、他已紹介やクイズなどを交えて研究室員の親睦を深めております。また、同窓会誌掲載のための研究室員集合写真については、個別に撮影した写真を合成して作成しました。

卒業生の皆様、毎年お中元、お歳暮などたくさんのご支援をいただきありがとうございます。皆で分配して美味しくいただいております。大変感謝しております。直接会ってお話ししたいことがたくさんありますので、コロナ禍が収束次第、長崎・研究室へぜひお立ち寄りください。また、当研究室のWebサイト (<http://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/lab/dds/>) も学術情報や研究室のニュースなどを随時更新していますので、ぜひご覧ください。

最後になりましたが、コロナ禍の一刻も早い収束と長崎大学薬学部同窓会の皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

実践薬学研究室

学部5年 中島 克海

新型コロナウイルス感染症が流行し始めてから1年半以上が経過しましたが、感染者数は一進一退を繰り返しています。マスク生活にもすっかり慣れてしまったのではないのでしょうか。実践薬学研究室は平成17年8月に中嶋幹郎先生(昭57)が初代教授として着任されてから今年で17年目を迎えました。また平成27年4月に大山要先

生(平12)が准教授として、平成30年4月に黒崎友亮先生(平17)が助教として着任されました。2021年3月には、博士課程1名、薬学科4名が修了、卒業して、研究員、薬局・病院薬剤師として活躍しています。令和3(2021)年10月現在、当研究室には先生方3名、博士課程大学院生1名(社会人)、特任研究員1名、技能補佐員1



名、学部生19名の計25名が所属しています。

現在、学部6年生は卒業論文発表会に向けた準備をしています。また、薬剤師国家試験に向けた勉強にも日々取り組んでいます。2021年9月28日に行われた第5回育薬研究教育センター若手シンポジウムでは、学部6年生全員がそれぞれ研究発表を行いました。その中で「強皮症特有の免疫複合体抗原の同定」について発表された陣林さんが優秀発表賞を受賞されました。来年は私たちが発表するので、先輩方のような素晴らしい発表ができるように日々の研究に取り組んでいきたいと思ひます。学部5年生は薬局・病院実習の真っ最中です。薬局実習は通常通り行われていますが、病院実習は昨年と同様に実地実習とオンライン実習を並行して行われています。実習では現場の薬剤師の先生方に指導してもらい、少しずつですが成長を実感しています。学部4年生は薬学共用試験(OSCE・CBT)に向けて事前実習に臨んでいるところです。全員が合格できるようにしっかりと勉強に励んでもらいたいです。10月には学部3年生5人が配属されました。研究室のメンバーと顔合わせを行いました。コロナ禍ということで歓迎会ができないことが残念です。また、上級生は実習中ということもあり、なかな

か学部3年生と会えない状況が続いていますが、学部3年生が少しでも早く研究室での生活に慣れてもらえるようにサポートしていきます。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で研究室のイベントは行えていません。昨年度は学校の規則に従ったうえで9月に伊王島でバーベキューを行いました(写真)。美味しいお肉や海の幸に舌鼓を打ちつつ、先生や先輩方と仲を深めることができました。また昨年10月末に行われた薬学祭のスポーツ大会は、バレーボール、ソフトボール、フットサルの3種目に出場しました。バレーボールは予選を勝ち抜き決勝トーナメントに進出しましたが、1回戦で惜しくも敗退しました。ソフトボールは思いのほか打線がつながり準優勝、フットサルは優勝と素晴らしい成績を残すことができました。今年度のスポーツ大会でも旋風を巻き起こしていきたいと思ひます。

コロナ禍のため学生の行動に制限がかかっており、なかなか思い通り過ごすことはできませんが、研究室一同協力して日々の研究に励んでいきたいと思ひます。最後になりましたが、長薬同窓会の皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

薬用植物学研究室

学部6年 鳥越 達也

現在、薬用植物学研究室は、山田耕史准教授のご指導の下、大学院生2名、学部生6名の計8名で日々研究に取り組んでいます。当研究室の近況についてご報告させていただきます。ご報告させていただきます。

当研究室ではおもに植物や海洋生物、また海洋生物由来の微生物が産生している生理活性成分の単離および構造解析、生理活性試験などの研究活動を行っています。全員違うテーマの研究を行っているため、一人でやる実験に大変さを感じることもありますが、その中でも助け合いながら研究を行う日々を過ごしています。

2021年は当研究室から薬学科2名、薬科学科1名の計3名の学生が卒業を迎えました。3月には、卒業された薬学科の西部さんと早内さんの送別会を行いました。お二人には実験や勉強、就職活動のことなど色々なことを教えていただき、とても仲良くしていただいていたので、寂しい別れとなりました。そして9月には、薬科学科の白川さんの送別会を行いました。白川さんの卒業式の日には台風が直撃してしまいどうなることかと思ひましたが、無事に卒業式を終えることができほっとしています。研究室一同、皆さんが卒業後も元気に過ごされることをお祈りしています。

4月中旬には薬用植物学の基礎実習が行われました。

昨年と同様に、実験のテーマを絞り、普段は全員で実習室にて行うところを、3班に分け、さらに時間差を設け、1班は植物園での薬用植物の観察とスケッチを行ってもらうことで、三密を避けるための工夫をしました。前年度は最終日にオンラインでの実習となりましたが、今年は前年度と異なり、最後まで対面での実習を行うことができ良かったと思ひます。

また、文献紹介セミナーは、前年度はオンラインがほとんどでしたが、今年度は対面での発表も増えてきました。オンラインセミナーに関しても、前年度からZoomでの発表を実施していたこともあり、皆去年よりもスムーズにセミナーを聴講することができていたようでした。

研究室での行事に関しては、今年度も昨年度に引き続き新型コロナウイルスの影響があり、例年開催しているような行事をあまり行うことができませんでした。加えて7、8月にはワクチン接種がありましたが、研究室のメンバーのほとんどの方が1回目、2回目ともに筋肉痛や発熱などの副反応が出てしまいとても大変でした。そんななか、薬用植物園には実りの多い1年となり、5月には梅を、8月にはスイカやメロンを、9月には栗を採ることができ、それぞれの季節の味覚を楽しむことがで

きた年になりました。植物園には1年を通して様々な植物がきれいな花を咲かせ、実をつけるので、興味がある方々には、是非植物園を訪問していただきたいと思います。

後期が始まると、博士後期課程1年の池本さんはモデルコースのため実務実習事前実習が始まり、大学院の講義や研究活動を両立するためにとっても忙しそうにしていました。来年からは実務実習が始まり、同年度には国家試験も控えているため、非常に多忙だと思いますが、同じモデルコースの方々と励まし合いながら乗り越えていって欲しいと思います。

10月初めには森川君と吉田さんが研究室の一員として

新たに加わり、研究室も少しずつにぎやかになってきました。2人は慣れない研究室生活で大変だと思いますが、研究を進めていきながら少しずつ研究室に慣れていってほしいと思っています。また、私たちも後輩の指導とともに、自分の研究に一層力を入れ、卒論発表や修論、国家試験に向けて各々が精を出していく所存です。10月末には、薬用植物園の公開講座も実施されました。定員を超える人数の方々にご参加いただきました。

最後になりましたが、卒業された皆様、並びに長薬同窓会の皆様のご健康と更なるご活躍をお祈り申し上げ、近況の報告とさせていただきます。



臨床研究薬学研究室

学部6年 城戸 麻美

皆様ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、これを書いている今は朝夕めっきり涼しくなり、秋の到来を感じている頃です。そして秋の訪れと共に3年生3名を当研究室に迎えました。春に先輩が1名卒業されたので、令和3年度の当研究室では、都田真奈教授(平9)、北里海雄准教授のご指導の下、6年生4名、5年生1名、4年生2名、そして3年生3名の総勢12名で日々研究に取り組んでいます。一時期は人数が少なかった当研究室ですが、ずいぶん人数も増えて賑やかになってきました。

当研究室では感染免疫研究と疾病予防研究を行って

います。都田教授の下では、既存代謝調節薬による感染免疫調節の機序を明らかにするため、マラリア感染モデルを用いた研究をしています。さらに疾病予防研究では、3年生(現在4年生)が中心となって、新型コロナウイルス感染症予防におけるマスクの飛沫阻止能を検討し、長崎新聞(今年5月17日朝刊1面)に掲載されました。北里准教授の下では乳酸菌代謝物の免疫調整機序の解析やマクロファージ系細胞を用いた抗炎症関連の解析をしています。北里先生は積極的に県内の食品企業と産学共同研究を進めており、食品由来の乳酸菌またはその代謝産物による健康促進効果の共同研究を行っています。そ

して当研究室では毎週金曜にセミナーを行っています。内容は文献紹介や卒業研究の進捗報告ですが、先生方も丁寧に一つ一つ指導して下さるので、長時間に及ぶこともあります。最初のうちは上手いかず、次週に持ち越しになるほど苦戦する事もありましたが、徐々に経験を重ねることで卒業研究に重要な論文を読む力、人に自分の実験を伝える力など様々な力が鍛えられていきます。

昨年に引き続きここ一年も数々のイベントは中止となってしまいましたが、このような日々の中でも様々な出来事がありました。新型コロナウイルス感染症が落ち着き、大学での行動制限も緩和された11月には少し遅めの3年生の歓迎会を行いました。短い時間でしたが、研究室での仲が深まったと思います。また12月末には年末の大掃除を行いました。オートクレーブやエアコンのフィルターなど、日頃簡単な掃除で済ませているところを根本的に大掃除しました。丸一日かけて取り組んだので、寒い日ではありましたが額に汗がにじむ程でした。そして5年生は薬局・病院実習、4年生は薬学共用試験(OSCE, CBT)を無事終え、今年度を迎えました。今

年度も毎年恒例の6月22日から3日間当研究室の基礎実習が行われました。例年より日数も少なく内容も限られた物でしたが、環境細菌の採取やグラム染色などを通して研究室に関する基本的な手技・知識を身につけられたのではないかと思います。9月28日には当研究室教員所属の育薬研究教育センター主催である第5回若手シンポジウムが行われました。このシンポジウムでは薬学科学学生や薬剤師免許を有する大学院生が研究発表を行います。当研究室からも3名が発表しました。新型コロナウイルス感染症の対応などイレギュラーな状況の中、開催に協力して下さった先生方、講演に出演して下さった松下正行様(平2)、堀口道子様(平19)にはこの場をお借りして御礼申し上げます。10月現在、先生方は今年度の薬学共用試験OSCEの指導を中心に行う事前実習を担当されています。今年度も皆さんが合格できるよう私たちもチューデントアシスタントとしてお手伝いできればと思います。

末筆ではございますが、長崎大学薬学部同窓会の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。



治療薬剤学研究室

学部3年 山田 琉也

治療薬剤学研究室は長崎大学病院の薬剤部に併設されている臨床系の研究室で、大学の研究・講義棟ではなく、実際に臨床業務を行っている薬剤部のすぐ隣の部屋で研究を行っています。研究室が大学病院内にあるため、他の研究室よりも新型コロナウイルスに対する制限が厳しく、新型コロナウイルスが流行った時期は研究ができなかったため、前年度末に卒業された先輩方は非常に大変だったと聞いています。2021年10月に入ってからは長崎県の新型コロナウイルス感染者の数は落ち着いており、一部制限はありますが、例年と同じような生活を送ることができるようになってきています。文教キャンパスや坂本キャンパスにある他の研究室とは違い、臨床で活躍している薬剤部の先生方の隣で研究ができる環境なので、学生の間から医療現場の雰囲気を感じ、先生方の話を聞くことができる唯一の研究室です。

今年の10月から学部3年生の山田琉也と富永菜花の2名が研究室に加わり、現在の治療薬剤学研究室のメンバーは、兒玉幸修准教授（平13）、学部6年生2名、5年生4名、4年生と3年生は2名ずつの計10名です。他にも、里加代子先生（平17）などの大学病院薬剤部の先生

や、治療薬剤学研究室出身で今は実践薬学分野で助教をされている黒崎友亮先生（平17）が病棟業務や実習生の指導を行いながら、本研究室で研究もされています。

本研究室では、兒玉先生と黒崎先生のご指導の下、核酸医薬品を臨床へ応用するための薬物デリバリーシステム（DDS）の開発研究を行っています。現在は、熱帯医学研究所と共同で、新型コロナウイルス感染症に対する吸入型mRNAワクチンを開発しています。このように、病院内の小さな研究室ですが、他の研究室に負けない最先端の研究が行われています。現在、私たちは先輩方に指導して頂きながら、これらの研究に必須となる実験技能を学んでいます。今まで座学で学んだ知識を応用して実験原理を考える機会が多くあり、日々研鑽を積み重ねています。今後も卒業生の皆様のご期待に応えられるよう、研究活動に努めてまいりたいと思います。

昨年度末には、学部6年生の神田明樹さん、中村浩基さん、真崎靖子さん、博士課程の濱田英里さん（平29）がご卒業され、佐々木均先生（昭53）がご退官されました。下には2021年3月13日に行われた佐々木先生の退官記念シンポジウムの写真を掲載いたします。



左から順に橋田充先生，奥田真弘先生，佐々木均先生，木平健治先生，宮崎長一郎先生（博62入）

薬品構造解析学研究室

准教授 真木 俊英

薬品構造解析学研究室は、2021年3月に薬科学科の志船さんが卒業しました。2020年10月から米崎さん、2021年4月からは茶屋さんを迎えました。相変わらずのコロナ禍ですが、6年生の入江さんは、卒論の目処をつけ国家試験合格を目指して順調に学習を進めています。5年生の松永さんは、実習で実技を研鑽しています。研究室は、やや寂しい状況ですが、博士後期課程3年生の周さんが博士論文をまとめるため、一人で追い込みに入っています。今年まとめた論文が米国化学会誌 *The Journal of Organic Chemistry* に掲載され、Supplementary covers に採択されました (下図ご参照)。なかなか良い

出来映えなので、ポスターが届いたらフレームに入れて飾ろうと思っています。関連する研究内容順調に展開し始めています。

9月1日から、真木の正式所属である「研究開発推進機構・設備共同利用部門」の事務補佐員として、岡本さんに加わって頂きました。第2研究室の古い工作機械・装置類を片付けて、スペースをつくりました。以前よりも入り口付近が広くなりました。

当研究室でも新しい日常を手探りで進んでいます。オンライン授業にオンライン会議、DXによる変化は、研究推進に役立つかもしれません。



図 *J.Org.Chem.* の Supplementary cover に採択された周さんの論文カバーイメージ(左) Z.Zhou et al. "Ratiometric Fluorescence Acid Probes Based on a Tetrad Structure Including a Single BODIPY Chromophore". と最近の1研の様子(右)

庶務報告

岸川 直哉（平10）

○定例理事会

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大防止のための取組が継続されていることから、昨年度に続き今年度も書面での理事会開催となりました。令和2年度事業報告および決算報告、監査報告、庶務報告、役員変更案、会則改正案、令和3年度事業計画案および予算案、次年度定期総会開催場所について検討されました。

○令和3年度長薬同窓会定期総会

令和3年度長薬同窓会定期総会につきましては7月10日（土）に大分市にて開催する予定で大分支部の方々と準備を進めてまいりましたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から一堂に会しての対面による総会を中止し、昨年度に引き続き書面での開催とさせていただきます。結果につきましては下記のとおりです。

◎令和3年度 長薬同窓会定期総会書面開催結果

- 第1号議案 令和2年度事業報告の件
賛成617, 反対 1
 - 第2号議案 令和2年度決算報告・監査報告の件
賛成618, 反対 0
 - 第3号議案 令和2年度庶務報告の件
賛成618, 反対 0
 - 第4号議案 長薬同窓会役員の変更の件
賛成618, 反対 0
 - 第5号議案 長薬同窓会会則改正の件
賛成618, 反対 0
 - 第6号議案 令和3年度事業計画案の件
賛成618, 反対 0
 - 第7号議案 令和3年度予算案の件
賛成618, 反対 0
 - 第8号議案 次年度定期総会の開催場所の件
賛成618, 反対 0
- すべての議案について、過半数の賛成をもって可決・承認されました。

○長薬同窓会関連施設の維持・管理

令和3年8月1日（日）に、グピロが丘防空壕跡慰霊碑周辺の清掃を同窓会本部役員・事務局で行ないました。8月24日（火）には、昭和町校舎跡記念碑の清掃を岸川

庶務幹事（平10）、松尾会計幹事（平15）が同窓会本部役員を代表して行いました。また、10月31日（日）に小野島校舎跡地記念碑周辺の清掃を山口会長（昭56）が長崎県央支部の方々と一緒に行ないました。

○令和3年度白衣贈呈式

令和3年9月30日（木）に薬学部多目的ホールで、白衣贈呈式を執り行いました。贈呈式の始めに、西田薬学部長の挨拶の後、山口会長からは、白衣に入れられている同窓会のロゴには文武両道の想いが込められていること、これを機に長薬同窓会を身近に感じてもらい、今後さまざまな出会いを通して有意義な学生生活を送ってほしいとのお話がありました。1年生代表2名から感想が述べられ、贈呈された白衣をまとい記念撮影を行いました。

○下村脩博士胸像除幕式

令和3年10月21日（木）に薬学部玄関ホールにおいて下村脩博士の胸像除幕式を執り行いました。完成した胸像の設置に合わせ昨年3月に、胸像の除幕式や同窓生と教職員・学生との懇談会等の諸行事を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症蔓延のため延期されておりました。このたび感染状況が落ち着いてきたことから、当初予定していた懇談会等は行わず、胸像の除幕式を関係者のみで執り行うことになりました。同窓会からは事情を考慮し、山口会長、山中事業後援会会長のほか、学内所属の本部役員のみのお出席とさせていただきます。

○支部長交代

宮崎支部日向浦陵会の新会長に平成13年卒の福森正剛氏が就任されたことについて、同支部から令和3年10月29日に届けがありました。

○寄贈

下記の通り、令和2年8月から令和3年7月までの間に同窓生の皆様より寄附金が寄せられ、希望者へ同窓会特製（校章入り）白衣が返礼品として贈られました。

昭43	山中 國暉 様	20,000円
昭48	林田 眞二郎様	7,000円
昭51	藤内 久留美様	10,000円
昭53	朱雀 五十四様	20,000円

物故者氏名

前会報（60号）に発表の後亡くなった方、及び死亡が判明した方（敬称略）

氏名	卒年次	死亡年月日	氏名	卒年次	死亡年月日	氏名	卒年次	死亡年月日
鶴 大典 特		令3.10.16	永田（田中）久利	昭28	令3.2.7	清 水 捷 宏	院昭42	令2.12.9
上 原 壮 彦	昭17	令3.2.27	松 尾 亘 順	昭28	令1.9.26	星 見 令 子	昭45	令3.9.-
田 島 輝 彦	昭22	令3.9.1	黒 岩 幸 雄	昭30	令3.1.10	松本（上村）和子	昭51	令3.7.8
井 川 聰一郎	昭23	令3.10.2	酒井（長池）裕子	昭30	令3.1.31	谷山（堀）綾子	昭62	令3.1.-
白 川 學	昭23	令3.3.12	桑山（深江）晶子	昭31	令3.6.13	猿 渡 いづみ	平13	令3.5.24
吉 田 俊 之	昭24	令3.3.30	稲 葉 雄三郎	昭36	令2.11.30			
今 上 亨	昭25	令3.7.31	片 岡 正 剛	昭37	令3.10.28			
藤 津 昭 夫	昭25	令2.10.10	一 瀬 充 範	昭40	令3.11.6			
							計	21名

長薬同窓会会則改正

長薬同窓会会則では、第6条において会長、副会長、幹事、監査、顧問及び学年理事を役員と規定している一方、第18条において役員会は会長、副会長、幹事、監査、顧問より構成されることになっており、役員と役員会の構成について整合が取れていないことから、整合を図るため所要の会則改正を行うものです。具体的には、学年理事を除く役員を本部役員と定義するとともに、会則で規定する役員会の名称を本部役員会に改めるものです。また、第8条第3号中の「出案」を通常使われている語句「案出」に改めます。

現行	改正案
<p>(総則) 第一条～第五条 (省略)</p> <p>(役員) 第六条 本会は次の役員をおく。 1. 会長 一名 2. 副会長 若干名 3. 幹事 若干名 4. 監査 一名 5. 学年理事 若干名 6. 顧問 若干名 第七条 (省略) 第八条 役員の仕事は次の如し。 1. 会長 会務を総理し本会を代表する。 2. 副会長 会長を補佐し会長事故ある時は之を代行する。 3. 幹事 常務を処理し、<u>役員会に出案し</u>、会務を分掌する。 4. 監査 会計を監査する。 5. 学年理事 各学年の会員を代表して理事会を組織し、会務を審議する。 6. 顧問 本会の諮問にあずかる。 第九条～第十条 (省略)</p> <p>(会議) 第十一条 会議を分けて、総会、理事会、<u>役員会</u>とする。 第十二条 (省略) 第十三条 臨時総会は<u>役員会</u>に於いて必要と認めるとき之を開く。 第十四条～第十五条 (省略) 第十六条 理事会及び<u>役員会</u>は会長必要と認められた場合開く。 第十七条 (省略) 第十八条 <u>役員会</u>は会長、副会長、幹事、監査、顧問よりなり、会長は会の重要事項に関し、之を諮問する。 第十九条 理事会及び<u>役員会</u>の議事は出席者の過半数を以て之を決する。 第二十条～第三十三条 (省略) 附則 (省略)</p>	<p>第六条 本会は次の役員をおく。<u>なお、学年理事を除く役員を総じて本部役員と称する。</u> 1. 会長 一名 2. 副会長 若干名 3. 幹事 若干名 4. 監査 一名 5. 学年理事 若干名 6. 顧問 若干名</p> <p>3. 幹事 常務を処理し、<u>本部役員会に案出し</u>、会務を分掌する。</p> <p>第十一条 会議を分けて、総会、理事会、<u>本部役員会</u>とする。</p> <p>第十三条 臨時総会は<u>本部役員会</u>に於いて必要と認めるとき之を開く。</p> <p>第十六条 理事会及び<u>本部役員会</u>は会長必要と認められた場合開く。</p> <p>第十八条 <u>本部役員会</u>は会長、副会長、幹事、監査、顧問よりなり、会長は会の重要事項に関し、之を諮問する。 第十九条 理事会及び<u>本部役員会</u>の議事は出席者の過半数を以て之を決する。</p>

長薬同窓会への寄附金について（ご案内）

皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、長薬同窓会への寄附金につきましては、2016年6月に開催いたしました平成28年度定期総会においてご承認いただき年間を通じて随時受け付けているところであり、頂戴いたしました寄附金につきましては長薬同窓会の事業等に活用させていただいています。

つきましては、下記の通り寄附金を受け付けておりますので、本会事業の充実・発展のため、格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

なお、ご賛同いただける方は、次ページの寄附金申込書・白衣希望確認書をE-mail、FAX、または郵送にて事務局までお送りくださいますようお願い申し上げます。

寄附対象者	長崎大学薬学部同窓生 長崎大学薬学部教職員 本会の趣旨に賛同する個人、法人、団体など
寄附金の単位	個人による寄附金については1口1万円を単位とします。 法人・団体等による寄附金については1口の金額は定めません。
寄附金納入方法	<u>郵便振替</u> 口座番号：01860-3-4125 口座名：長薬同窓会 <u>銀行振込</u> 十八親和銀行大橋支店 普通預金 口座番号：0517453 口座名：長薬同窓会 ※専用の振込用紙等の送付はございませんので、各自ご都合のよろしい方法で送金をお願いいたします。 恐れ入りますが振込手数料は各自ご負担願います。また、振込人名義には寄附者名と同じ名前でのご入力をお願いします。 <u>現金</u> 申込書を添えて現金書留でお送りいただくか、同窓会事務局へご持参ください。 ※申し訳ございませんが、長薬同窓会への寄附金の場合、税控除はありません。代りにお礼の品として校章入り白衣を贈呈いたします。
お礼の品	ご希望の方は1万円の寄附につき長崎大学薬学部の発端となった第五高等中学校の校章入り白衣を1着贈呈させていただきます。 サイズは男女別のS, M, L, LL, 3Lとなっております。 <u>次ページ</u> の白衣希望確認書によりE-mail, FAX, または郵送でお知らせください。 毎年7月末までにご寄附いただいた方へ10月初旬ごろを目安に校章入り白衣を贈呈させていただきます。 贈呈数の例：10万円の寄附→0～10着まで選択可能

長薬同窓会 会長 山口 正広

問い合わせ先：長薬同窓会事務局

〒852-8131 長崎市文教町1-14 長崎大学薬学部柏葉会館内
TEL&FAX：095-844-6383 E-mail：jimukyoku@choyaku.jp

.....年 月 日

長 薬 同 窓 会 会 長 殿

寄附者 郵便番号

住 所

ふりがな

氏 名

(※法人にあつては、法人名及び代表者の職・氏名)

卒年 会員番号

(※同窓会会員の方で会員番号がわかる方はご記入下さい。)

電話番号

(※電話番号は必ず記入して下さい。)

寄 附 金 申 込 書

1. 寄附金額 円

2. 納入予定日 年 月 日

3. 納入方法 銀行振り込み 郵便振替 現金

(※いずれかに○をお願いします)

白 衣 希 望 確 認 書

1. 白衣の希望 あり なし

2. 白衣のサイズと枚数

男性用	枚数	女性用	枚数
S		S	
M		M	
L		L	
LL		LL	
3L		3L	

(※1口1万円につき1枚、最大10枚まで)

※この申込書は長薬同窓会のホームページからダウンロードできます。

学 内 記 事

(異 動)

異動年月日	異動内容	職	氏 名	所属研究室	備 考
R 3.1.1	採 用	助 教	竹生田 淳	細胞制御学	九州大学 テクニカルスタッフより
R 3.4.1	採 用	プロジェクト助教	三 瓶 悠	機能性分子化学	ハーバード大学 博士研究員より
R 3.5.31	退 職	准 教 授	淵 上 剛 志	衛 生 化 学	金沢大学薬学部 准教授へ
R 3.7.1	採 用	プロジェクト助教	岡 元 拓 海	創 薬 薬 理 学	長崎大学 特任研究員より
R 3.9.1	採 用	准 教 授	平 山 達 朗	薬 物 治 療 学	長崎大学病院 助教より

(学位授与)

学位記番号	学位の種類	氏 名	学位授与年月日	学位記番号	学位の種類	氏 名	学位授与年月日
博甲第1338号	博士(薬 学)	おがわ こうき 小川 昂輝	令和3年3月22日	博甲第1366号	博士(薬 学)	いとう のりこ 伊東 紀子	令和3年9月1日
博甲第1339号	博士(薬 学)	あいばら のぞみ 相原 希美	令和3年3月22日				

長 薬 同 窓 会 役 員

(令和3年11月)

本部役員

会 長 山口 正広 昭56年 翔薬島原分室 副 会 長 七種 均 昭56年 松谷薬局 “ 中嶋 幹郎 昭57年 長大薬学部教授 “ 中村 忠博 昭59年 長大病院副薬剤部長 “ 藤島さとみ 平3年 宝町薬局 “ 川上 茂 平7年 長大薬学部教授 “ 澤勢 瑞城 平15年 さわせ薬局 監 査 高良 真也 昭57年 みどり調剤薬局 庶務幹事 岸川 直哉 平10年 長大薬学部准教授 会計幹事 松尾 洋介 平15年 長大薬学部助教 編集幹事 鶴丸 雅子 平5年 長大病院薬剤部 “ 稲嶺 達夫 平18年 A C T L a b. “ 宮元 敬天 平20年 長大薬学部助教 “ 小嶺 敬太 平24年 長大薬学部助教	幹 事 本多 雅幸 昭62年 長崎県環境保健研究センター所長 “ 梶島 力 平4年 長崎国際大教授 “ 山口 拓 平8年 長崎国際大教授 “ 都田 真奈 平9年 長大薬学部教授 “ 藤田和歌子 平11年 長大医学部准教授 “ 兒玉 幸修 平13年 長大病院准教授・副薬剤部長 “ 福地 弘充 院平14年 鍵屋薬局 “ 手嶋 無限 院平15年 アイビー薬局 “ 廣石 朝美 平28年 長崎県壱岐保健所 顧 問 山中 國暉 昭43年 あおかた調剤薬局 “ 佐々木 均 昭53年 長大名誉教授
---	---

学年理事

学部

昭23年	中原 潜	昭48年薬	竹嶋 直樹	昭61年薬	本多 隆	平11年	今村 朋史	平25年学	黄 智剛
昭24年		“ 製	井手 清	“ 製	谷口 智子	“	水野 和美	“ 科	原口 綾奈
昭25年	塚崎 邦彦	昭49年薬	金崎 勝代	昭62年薬	森川 隆	平12年	大山 要	平26年学	渡邊ありさ
昭26年	峰 唯信	“ 製	馬場 満輝	“ 製	池田能利子	“	松永 隼人	“ 科	池田 夏海
昭28年	寺田 洋子	昭50年薬	橋間真理子	昭63年薬	小田 賢一	平13年	池口 敏春	平27年学	濱崎 久司
昭29年		“ 製	松田 米人	“ 製	神山 朝光	“	佐道 紳一	“ 科	八田 大典
昭30年	帆士 辰雄	昭51年薬	中村 珠江	平1年薬	嶋田 美樹	平14年	河内 亮	平28年学	林田 颯志
昭31年	中尾 保敏	“ 製	原田 均	“ 製	白川奈奈子	“	小西 宏規	“ 科	松本 啓秀
昭32年	長田 雅子	昭52年薬	長井千恵美	平2年	小山 季之	平15年	木寺 健司	平29年学	副島 有佳
昭33年	西脇金一郎	“ 製	北村 良二	“	山本 稔	“	原田 周平	“ 科	加藤 直也
昭34年	松尾 幸子	昭53年薬	森田 桂子	平3年	中村 達也	平16年	大神 正次	平30年学	廣石 収
昭35年	木下 敏夫	“ 製	佐々木 均	“	竹中 清美	“	牟田 響	“ 科	杉本 友里
昭36年	武田 成子	昭54年薬	七條 利幸	平4年	梶島 力	平17年	黒崎 友亮	平31年学	赤城 友章
昭37年	青木 昇	“ 製	濱田 哲也	“	藤田 靖之	“	竹尾 公秀	“ 科	棚原 悠介
昭38年	岡 邦彦	昭55年薬	重松 敏彦	平5年	木村 清	平18年	稲嶺 達夫	令2年学	草野 泰輝
昭39年	鈴木 隆治	“ 製	大田 佳史	“	森本 仁	“	藤井 修平	“ 科	長坂 東奈
昭40年	松村 祐子	昭56年薬	立花 寿子	平6年	岩永 真理	平19年	細井 雄仁	令3年学	増田 智成
昭41年	伊豫屋偉夫	“ 製	都知木 陸	“	金村 隆則	“	向江 俊彦	“ 科	橋口 啓吾
昭42年	井上 一顕	昭57年薬	堀田千加子	平7年	土井 健志	平20年	向江 桂		
昭43年	山中 國暉	“ 製	中西美由紀	“	原田 祐樹	“	筒井 翔一		
昭44年	中村 和子	昭58年薬	宮崎 幹雄	平8年	草野 り工	平21年	桑田 拓也		
昭45年	中村 博	“ 製	松本 秀樹	“	山口 拓	“	原 陽介		
昭46年薬	大西 裕子	昭59年薬	金子 富美	平9年	平良 文亨	平22年	測上 由貴		
“ 製	田中 秀二	“ 製	中村 忠博	“	八木 洋一	平23年	中本 義人		
昭47年薬	上田 孝子	昭60年薬	塩田 英雄	平10年	稲本 真吾	平24年学	大塚 早紀		
“ 製	松本 逸郎	“ 製	山口 綾子	“	八幡 弘樹	“ 科	只熊 郁也		

大学院

昭和42年～昭和46年	藤井 幹久 (院昭44年)	平成9年～平成13年	川上 茂 (院平9年)
昭和47年～昭和51年	高橋 正克 (院昭49年)	平成14年～平成18年	福地 弘充 (院平14年)
昭和52年～昭和56年	大木 豊 (院昭54年)	平成19年～平成23年	岩村 直矢 (院平23年)
昭和57年～昭和61年	高良 真也 (院昭59年)	平成24年～平成28年	村山 彩香 (院平24年)
昭和62年～平成3年	本多 雅幸 (院平1年)	平成29年～令和3年	小川 昂輝 (院平29年)
平成4年～平成8年	富田 守 (院平4年)		

長薬同窓会支部一覧

(令和3年10月)

長崎支部ぐびろ会	会 長	澤 勢 瑞 城 (平 15)
長崎県北支部	支部長	相 川 康 博 (昭 48)
島 原 支 部	支部長	織 田 堅一郎 (平 6)
長崎県央支部	支部長	西 村 昇 (昭 50)
佐賀支部若楠会	会 長	藤 戸 博 (院昭52)
福岡支部浦陵会	会 長	池 田 光 政 (昭 57)
北九州支部	支部長	増 田 和 久 (昭 50)
大 分 支 部	支部長	石 橋 眞 (昭 49)
宮崎支部日向浦陵会	会 長	福 森 正 剛 (平 13)
鹿 児 島 支 部	支部長	森 昭 雄 (昭 28)
熊 本 支 部	支部長	山 本 喜一郎 (院昭55)
山口支部抜天会	会 長	今 村 明 久 (昭 49)
広 島 支 部	支部長	青 野 拓 郎 (昭 52)
岡 山 支 部	支部長	歳 森 三千代 (昭 49)
山 陰 支 部	支部長	郡 山 信 宏 (昭 61)
四 国 支 部	支部長	井 上 智 喜 (昭 54)
近 畿 支 部	支部長	末 澤 克 己 (昭 47)
東 海 支 部	支部長	
関 東 支 部	支部長	原 正 朝 (昭 60)
沖 縄 支 部	支部長	
北 海 道 支 部	支部長	

令和2年度長薬同窓会普通会計収支決算報告書

令和3年3月31日

収入の部

科 目	予算額 (A)	決算額 (B)	増減額 (B-A)	主な事項等
前年度繰越金	2,839,418	2,839,418	0	
会費	6,000,000	5,927,000	△ 73,000	延べ1,976名
入会金	1,640,000	1,562,000	△ 78,000	82名 (令和元年度以前入学者納入も含む)
預金利息	50	43	△ 7	
寄附金	0	104,000	104,000	令和2年度庶務報告参照
雑収入	50,000	14,457	△ 35,543	
収入の部合計	10,529,468	10,446,918	△ 82,550	

支出の部

科 目	予算額 (A)	決算額 (B)	増減額 (B-A)	主な事項等
通信費	1,510,000	1,032,531	△ 477,469	
総会案内・会報送送料	770,000	563,718	△ 206,282	総会案内, 会報発送
振替加入者負担金	290,000	263,604	△ 26,396	会費振込手数料
事務連絡郵便料	400,000	170,830	△ 229,170	はがき・切手代, 理事会・総会関連郵送料他
電報電話料	50,000	34,379	△ 15,621	電話料
印刷費	1,400,000	916,262	△ 483,738	総会案内・資料印刷, 会報印刷他
会合費	20,000	3,400	△ 16,600	会長・副会長会議経費
旅費	300,000	0	△ 300,000	
補助費	730,000	608,511	△ 121,489	
総会及び支部会補助金	200,000	0	△ 200,000	
その他の補助金	530,000	608,511	78,511	学生への補助 (薬学祭, 白衣贈呈), 分析研究所跡地記念碑建立補助
維持管理費	105,000	22,130	△ 82,870	
原爆慰霊碑	100,000	22,130	△ 77,870	原爆慰霊祭, グピロが丘防空壕跡周辺の清掃
小野島記念碑	5,000	0	△ 5,000	
事務費	130,000	495,879	365,879	
事務用品費	30,000	485,339	455,339	複写機購入, コピー用紙, 文具
電算機費用	100,000	10,540	△ 89,460	ホームページ関連利用料 (サーバー他)
人件費	2,869,000	2,410,258	△ 458,742	
雇員給料手当	1,030,000	1,030,000	0	事務局職員手当
雇員交通費	39,000	38,400	△ 600	事務局職員交通費
臨時雇員等手当	1,800,000	1,341,858	△ 458,142	事務補助員費, 会誌等発送作業員費他
雑費	350,000	512,739	162,739	
会員見舞弔慰金	50,000	0	△ 50,000	
その他	300,000	512,739	212,739	原爆復興75周年記念事業への寄附, 事務局運営他
同窓会名簿発行積立金	500,000	500,000	0	
予備費 (次年度繰越金)	2,615,468	3,945,208	1,329,740	
支出の部合計	10,529,468	10,446,918	△ 82,550	

令和2年度長薬同窓会積立金 (同窓会名簿発行準備金) 収支決算報告書

令和3年3月31日

科 目	予算額 (A)	決算額 (B)	増減額 (B-A)	主な事項等
前年度繰越金	2,000,000	2,000,000	0	
繰入金	500,000	500,000	0	
預金利息	20	23	3	
積立金合計 (次年度繰越金)	2,500,020	2,500,023	3	

会計監査報告書

会計幹事, 松尾洋介氏立会のもと, 令和2年度に関する帳簿及び預金通帳を詳細に監査した結果, 記帳及び計算は妥当かつ正確なものであり, 上記の通り相違ありません。

令和3年5月16日

監査 高良 真也 

令和3年度長薬同窓会普通会計予算

令和3年4月1日

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前年度繰越金	3,945,208	通 信 費	1,510,000
会 費 (延2,000名)	6,000,000	総会案内・会報送料	770,000
入会金等 (薬学40名+薬科学40名)	1,520,000	振替加入者負担金	290,000
預 金 利 息	50	事務連絡郵便料	400,000
寄 附 金	50,000	電 報 電 話 料	50,000
雑 収 入	10,000	印 刷 費	1,400,000
		会 報 他 印 刷 費	1,400,000
		会 合 費	20,000
		理 事 会 そ の 他 会 合 費	20,000
		旅 費	300,000
		役 員 そ の 他 出 張 費	300,000
		補 助 費	630,000
		総 会 及 び 支 部 会 補 助 金	200,000
		そ の 他 補 助 金	430,000
		維 持 管 理 費	105,000
		原 爆 慰 霊 碑	100,000
		小 野 島 記 念 碑	5,000
		事 務 費	130,000
		事 務 用 品 費	30,000
		電 算 機 費 用	100,000
		人 件 費	2,769,000
		雇 員 給 料 手 当	1,030,000
		雇 員 交 通 費	39,000
		臨 時 雇 員 等 手 当	1,700,000
		雑 費	350,000
		会 員 見 舞 弔 慰 金	50,000
		そ の 他	300,000
		同 窓 会 名 簿 発 行 準 備 金	500,000
		予 備 費	3,811,258
合 計	11,525,258	合 計	11,525,258

令和3年度長薬同窓会積立金 (同窓会名簿発行準備金) 予算

令和3年4月1日

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前年度繰越金	2,500,023	積立金 (次年度へ繰越)	3,000,043
繰 入 金	500,000		
預 金 利 息	20		
合 計	3,000,043	合 計	3,000,043

事務局からのお願い

◎長薬同窓会の情報をホームページやFacebookで発信しています。時々アクセスしてみてください。

ホームページ <https://choyaku.jp/>

Facebook <https://ja-jp.facebook.com/cyoyaku/>

クラス会や同窓会の広報も行いますので、情報があればご連絡ください。

◎会報へのご寄稿をお願いいたします。

毎年10月末締め切りで年末に発行しておりますが、記事がございましたらいつでも結構です。事務局までお送りください。

◎住所・勤務先等に変更がございましたら早めにご連絡ください。

年々、住所不明の方が増えて寂しいです。ご協力をお願いいたします。

ご実家（〇〇様方宛て）にお送りしている方で、転居届を出されている場合、転送期間終了後は様方が付いていても返送されます。忘れずに変更してくださいませう、よろしくをお願いいたします。

<会員情報変更方法>

・ホームページ

長薬同窓会ホームページ → 会員情報変更 → 必要事項入力

・Email

長薬同窓会事務局 jimukyoku@choyaku.jp 宛て

・定期総会案内に同封の返信ハガキ

毎年4月末頃に郵送される返信ハガキ（切手不要）に記入し投函

・郵便はがき

〒852-8131 長崎市文教町1-14 長崎大学薬学部内 長薬同窓会事務局宛

・電話、FAX

長薬同窓会事務局 095-844-6383（FAX兼用）へ

◎会費の納入にご協力ください。

お振込みの際は、総会案内・会報に同封の振込用紙をご利用ください。

郵便振替、コンビニエンスストア、LINE Payを利用できます。

編集後記

長薬同窓会報 第61号（2021年）をお読みいただきありがとうございます。今年度より長薬同窓会編集幹事として加わりました、小嶺敬太（平24）と申します。至らない点多々あるかと存じますが、今後ともよろしくお願い申し上げます。

いただいたご寄稿を拝見しますと、今年もコロナ禍により行動が制限され、不自由な思いをしているのが感じ取れました。しかし、そのような状況下でも新たな楽しみを見出そうと様々なことにチャレンジしている方もおり、大変元気づけられました。

そんなコロナ禍も終息に向かっており、コロナ禍以前の生活を取り戻すのもそう遠くはございません。本学では行動制限が緩和され、サークル活動が一部再開するなど平常時に戻りつつあります。来年には、コロナが終息して様々なイベントが復活することを切実に願っております。

最後になりましたが、今回本誌を作成するにあたりご寄稿してくださいました皆様に心より感謝申し上げます。

小嶺 敬太

令和3年12月20日印刷

令和3年12月25日発行

長薬同窓会報

編集 鶴丸雅子、稲嶺達夫

宮元敬天、小嶺敬太

発行 長薬同窓会

（郵便番号852-8131）

所在地 長崎市文教町1-14 長崎大学薬学部内

TEL 095-844-6383（直通）

095-819-2471（ダイヤルイン）

FAX 095-844-6383

メールアドレス jimukyoku@choyaku.jp

（郵便番号870-0913）

印刷所 大分市松原町2丁目1-6

小野高速印刷株式会社

TEL 0120-58-3002



長崎大学薬学部 長薬同窓会